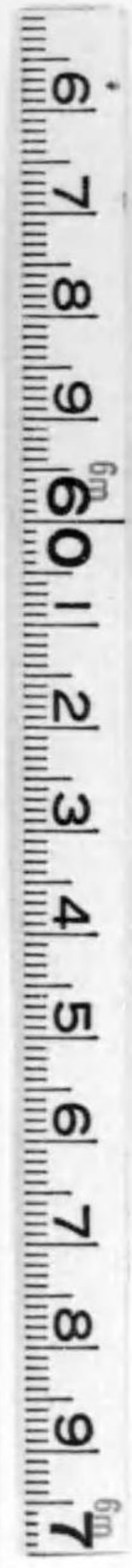


14.21
306



始



1421
306

大正
元年度

神奈川県水産試験場報告書

神奈川県水産試験場

元大正 神奈川縣水產試驗場報告

目次

試驗及調査

一 水產試驗場設立	一
一 水產試驗場處務規程	二
一 水產試驗場規程	四
一 大正元年年度經費	六
一 大正二年年度經費	八
一 職員	一〇
一 鯉鮪沖取網試驗	一一
一 餌餌善養試驗	五〇
一 石花菜蕃殖	六一
一 赤潮調査	六二
一 養殖適地調査	六三
一 漁業基本調査	六四

正頁 2.10.14 内交

正誤表

頁	行	誤	頁	行	誤
六	一六	餌餌善養試驗	四四	二九	如シ
九	六一	餌餌善養試驗	四四	三〇	シ
九	六二	餌餌善養試驗	四四	三一	シ
七	八〇	事業ナキ	四四	三二	シ
一	九五	餘儀ナキ	四五	三三	シ
二	九七	餘儀ナキ	四五	三四	シ
二	九八	餘儀ナキ	四五	三五	シ
四	一〇四	六十八日間	五二	四〇	ナシ
二	一〇九	六十八日間	五三	四一	ナシ
二	一一四	六十八日間	五三	四二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	四九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五〇	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五一	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	五九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六〇	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六一	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	六九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七〇	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七一	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	七九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八〇	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八一	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	八九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九〇	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九一	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九二	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九三	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九四	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九五	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九六	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九七	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九八	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	九九	ナシ
二	一二〇	六十八日間	五三	一〇〇	ナシ

水産試験場設立

明治三十五年以來水産技術員ヲ置キ講習講話又ハ簡易ナル模範試験ヲ爲シ縣下水産業ノ指導啓發ノ任ニ膺ラシメント雖モ時世ノ進運ニ伴フベク事業ノ發達ヲ助長セシムルニハ更ニ水産試験場ヲ設置シ倍本業ノ向上發展ヲ講スルノ必要ヲ感スルニ到レリ

偶々明治四十四年度通常縣會ニ於テ水産試験場設立ノ建議案提出セラレ、ヤ同十二月十二日滿場一致以テ之レヲ可決シ而カモ翌四十五年度ヨリ設立スルノ冀望切實ナリシニ依リ直ニ之レガ提案ヲ爲スニ決セシモ會期餘ス處僅ニ旬日ニ過ギズ爲メニ充分ノ調査考究ヲ行フノ遑ナキガ故ニ初年度ニ於テハ二、三重要事項ノ試験及調査ニ止ムルノ計劃ヲ以テ提案ヲ爲シ同月二十一日可決確定ヲ見タリ

依テ同四十五年二月二日試験場設立ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請シ同月二十三日之レガ認可ヲ經同四月一日ヨリ神奈川縣廳内ニ設置スルニ到レリ

水産試験場處務規程

第一條 本場ニ左ノ分科ヲ設ケ各科ニ主任ヲ置ク

- 一 漁撈科
- 一 製造科
- 一 養殖科
- 一 庶務科

第二條 左ニ掲クル事項ハ場長限リ之ヲ專行スルコトヲ得

- 一、場務ニ關シ場長名又ハ場名ヲ以テ文書ノ往復ヲナスコト但シ重大ナル事件ト認ムルモノハ知事ノ決裁ヲ承クヘシ
- 二、場員ヲ管内及東京市内ニ出張セシムルコト
- 三、場員ノ進退ニ關シ知事ニ具申スルコト
- 四、助手以下ノ進退身分ニ關スルコト
- 五、左記物品ノ購入並賣却ノコト
 - 一 廉見積金額參拾圓以内ニ於テ便宜ノ方法ニ依リ隨意ニ物品ノ購入並修繕若ハ借入ヲ爲スコト但シ本人ノ請求ヲ徵シ代金ノ下附ヲ知事ニ請求スヘシ
 - 一 廉五拾圓以内ノ生産物ノ賣拂及一廉拾圓以内ノ不用品ノ拂下ヲ爲スコト但シ生産物ヲ魚市場ニ糶賣シ又ハ腐敗變質シ易ク急速處分ヲ要スルモノヲ除キ貳名以上ノ當業者ニ指名入札セシメ賣却スルコト此ノ場合ニ於

テハ知事ニ報告シ買受人ヲシテ其代金ヲ縣廳ニ納附セシムヘシ

- 第三條 場長ハ場員ニ出張ヲ命シタルトキハ出張者氏名出張地名ノ事由及發着期日ヲ其ノ都度知事ニ報告スヘシ
- 第四條 場長ハ助手以下ノ探否ヲ專行シタルトキハ其都度知事ニ報告スヘシ
- 第五條 場長ハ技師以下ノ功過ヲ毎年十一月末日知事ニ具狀スヘシ但シ特別ノ功過ハ其ノ都度之ヲ具狀スヘシ
- 第六條 場長ハ豫メ業務順序方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 場長ハ前年度業務功程ヲ毎年四月末日迄ニ知事ニ報告スヘシ
- 第八條 場長ハ業務ノ成績ヲ審査編纂シ知事ノ認可ヲ經之ヲ刊行配付スヘシ
- 第九條 場長ハ知事ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第十條 場長ハ知事ノ認可ヲ受ケ本場ノ生産物及機械器具ノ標本ヲ博覽會、共進會等ニ出陳又ハ貸與スルコトヲ得
- 第十一條 場長ハ寄贈ノ圖書、標本等ヲ受領スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ直ニ知事ニ報告スヘシ
- 第十二條 本規程ヲ以テ定メタルモノ、外ハ總テ本廳處務細則ニ依ル

水産試験場規程

第一條 本場ハ水産業ノ改良ヲ圖ル爲メ左ノ事項ヲ掌ル

一、漁撈、製造、養殖ニ關スル調査及試験

二、講話、講習及傳習

三、魚兒、介苗ノ配附

四、質問、應答

五、試験又ハ調査ノ成績報告ノ刊行

第二條 本場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長	一	名
技師	若干	名
技手	若干	名
書記	若干	名

第三條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ管理ス場長事故アルトキハ首席職員其職務ヲ代理ス

第四條 技師ハ上長ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第六條 書記ハ上長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 魚介苗ハ試験ノ成績ニ因リ配付ノ必要アリト認ムルトキハ無償又ハ別ニ定ムル處ノ代金ヲ徴シ配布ス

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

大正元年度經費

大正元年度經費

歲出豫算表

項	目	節	金額
水產試驗場費	場		五、七四九八〇〇
	雜俸		六八八〇〇〇
		給給	一、四二二一〇〇
		旅費	五七七六〇〇
		惠與	一五〇〇〇
		諸備	八二九五〇〇
		備品費	三、六三九七〇〇
		文具費	三、〇四九六〇〇
		消耗品費	一四〇〇〇
		圖書及印刷費	一二四一〇〇
		被服費	五〇〇〇
		餌料蠶蓄養試驗費	三〇〇〇

大正元年度經費

雜費	五三〇〇〇
通信運搬費	四四〇〇〇

大正二年度經費

大正二年度經費

歲出豫算表

項	目	節	金額
水產試驗場費	場	雜	九、四七九〇〇〇
		俸	一、七四四〇〇〇
		給	二、七二七〇〇〇
		給	一、三八二〇〇〇
		旅	三七〇〇〇
		惠	一、二九八〇〇〇
		諸	五、〇一八〇〇〇
		備	二、五九一〇〇〇
		備	八四一〇〇〇
		消	八四一〇〇〇
		耗	八四一〇〇〇
		品	八四一〇〇〇
		搬	八四一〇〇〇
		費	八四一〇〇〇
		通	八四一〇〇〇
		信	八四一〇〇〇
		運	八四一〇〇〇
		費	八四一〇〇〇
		圖	一〇五〇〇〇
		書	一〇五〇〇〇
		及	一〇五〇〇〇
		印	一〇五〇〇〇
		刷	一〇五〇〇〇
		費	一〇五〇〇〇
		雜	一六六〇〇〇
		費	一六六〇〇〇
		被	五〇〇〇
		服	五〇〇〇
		費	五〇〇〇

八

臨時費豫算

項	目	節	金額
臨時費	費	養	六七六〇〇〇
		魚	六七六〇〇〇
		購	二二〇〇〇〇
		入	二二〇〇〇〇
		費	二二〇〇〇〇
		貯	三三〇〇〇〇
		藏	三三〇〇〇〇
		費	三三〇〇〇〇
		造	一、二四一〇〇〇
		池	一、二四一〇〇〇
		費	一、二四一〇〇〇
		建	八二二〇〇〇
		築	八二二〇〇〇
		費	八二二〇〇〇
		費	四二〇〇〇〇
		額	四二〇〇〇〇

大正二年度經費

九

職員

職員任免表

年 月 日	任 免	氏 名
明治四五、四、一	任 場長事務取扱	長岡隆一郎
同	任 技師	品川雄太郎
同	兼 任 技手	諏訪悦治
同	任 技手	河村加四郎
同	命 雇	濱田萬四郎
大正元、一〇、二一	依 願 免 職	諏訪悦治
同	囑 託 事 務	石原重良
同	兼 任 技手	新宅定一郎
同	免 場長事務取扱	長岡隆一郎
同	任 場長事務取扱	品川雄太郎
大正二、三、三一	任 技手	新宅定一郎
同	任 技手	伴誠一
同	任 書記	濱田萬四郎

鯉、鮪沖取網試験報告

試験ノ趣旨

相摸海ニ於テ毎年五月ヨリ九月ニ至ル間鯉、鮪ノ回游頗ル多キニヨリ同方面ノ漁業者ハ明治初年ノ頃ヨリ揚繰網ヲ使用シ盛ニ漁獲ニ従事シ一時足柄下、中ノ兩郡ニ於テ其ノ網數三十餘張ニ及ヒ其ノ産額殆ド拾萬圓ニ達セシガ現在ハ二十張内外ニ減ジ漁獲高參萬圓乃至五萬圓ニ降リ漸次衰微ノ兆ヲ顯ハセルハ魚群ノ來游幾分減少セルト漁獲高ニ著シキ不同ヲ生ゼル結果ニシテ一漁船參千圓乃至五千圓ノ漁獲アル者ト殆ド皆無ノ者トアリ斯ク著キ差異ヲ生ズルハ時ニ一回ノ投網ニテ能ク貳千圓乃至參千圓ノ漁獲ヲ見ルコトナキニ非ズト雖ドモ多クノ場合ハ魚群ヲ包圍スルコト屢々ナルニ拘ハラズ十中ノ八九ハ逃逸セシメ毎回失敗ニ終ルモノニシテ特ニ鯉群ニ於テ甚シトス而シテ屢々魚群ヲ逃逸セシムルノ主因ハ網具材料ノ不良ナルト構成並ニ使用法ノ不完全ナルトニ基因セズンバアラズ若シ夫レ如上ノ缺點ヲ改良シ漁獲回數ヲ増加シ更ニ進ンデ遠洋ニ於ル漁場ノ使用ニ適應スベク漁具、漁法ニ改善ヲ加フルヲ得ンカ收益ノ増大ハ期シテ待ツヘク且ツ其ノ利益ヲ享クル者豈獨リ縣下漁業者ニ止マランヤ然ルニ之レガ試験施設ニハ尠カラザル經費ヲ要シ當業者ヲシテ其ノ任ニ當ラシメントスルモ目下ノ狀態ニアリテハ到底望ヲ囑スルヲ得ザルニ依リ本場ニ於テ漁具漁法ノ改善ヲ圖リ漁獲高ノ増進ヲ講ズルノ目的ヲ以テ國庫ヨリ特別ノ補助ヲ仰ギ本年度ヨリ向フ三ヶ年間ニ完成スル豫定ニテ本漁業ニ關スル諸般ノ試験ヲ施行セントス

試験組織

網具及副漁具ハ本場費ヲ以テ新調シタル上漁夫賃金ノ補給トシテ金六百圓ヲ交付シ左記命令書ニ準據シ事業ニ經營スベキコトヲ足柄下郡小田原町石黒清次郎ニ囑托シ其監督ハ本場ヨリ派遣セル技師品川雄太郎之ニ當リ而シテ漁業ニ關スル指揮ハ農

商務省ヨリ特派遣セラレタル技師下田幸一氏ニ一任セリ

水産講習所ト聯絡ヲ取り本試験ノ效果ヲシテ一層確實ナラシムルノ目的ヲ以テ同所ヨリハ技手關根磯吉氏助手布目孜氏ヲ交替ニ派遣セラレ大ニ其ノ援助ヲ得タリ又本試験ニハ沿岸ノ狀況ニ鑑ミ補助機關付日本型漁船(肩巾八尺内外)ヲ使用シ網船引曳魚群驅逐及漁獲物運搬等ノ利便ヲ圖リ以テ試験ノ效果ヲシテ全カラシメントスルノ冀望ナリシモ經費ノ都合上之ヲ實施スルヲ得ザリシガ幸ニ同所石油發動機附七號艇ノ派遣ヲ得以テ豫期以上ノ好結果ヲ得タリ尙高知縣ヨリ鯉巾着網使用ニ熟練セル漁夫三名ヲ五十日間雇入ノ上本試験ヲ助成セラレタリ

水産講習所生徒實習上ノ都合ニ依リ同所ヨリ派遣セラレタル七號艇ハ八月十五日限り回航ノ余儀ナキ場合ニ至リシガ偶々千葉縣水産講習所屬小鷹丸ハ同所生徒ノ航海及漁業實習ノ爲メ相摸海方面へ來航セルニ際會シ其ノ目的本試験ノ一部ト合致セルヲ以テ網船ノ引曳魚群ノ偵察ニ付キ援助ヲ求メシニ其ノ快諾ヲ得豫定ノ通り試験ヲ遂行シ得タルハ本場ノ深ク感謝スル處ニシテ茲ニ記シテ其ノ謝意ヲ表ス

尙本試験開始ニ際シ被囑託者ニ於テ網船ノ準備整へ難キヤ小田原町鈴木善左衛門ハ自家所有ノ漁船二艘ヲ無料ニテ提供セラレ且ツ試験ノ末期ニ至リ魚取部ニ破損ヲ生ジ一時補充ニ苦ムヤ定置漁業用新麻網地百五十間餘ヲ是又無料貸與セラレ以テ本試験ヲ助成セラレタルノ厚意ハ深ク感謝スル處ナリトス

囑 托 書

足柄下郡小田原町幸四丁目五八一番地

石 黒 清 次 郎

明治四十五年度ニ施行スヘキ鯉、鮪沖取網試験ヲ囑托ス

但別紙命令書ノ通り心得ヘシ

明治四十五年五月二十日

場 名

命 令 書

第一條 囑託試験ノ期間ハ明治四十五年六月一日ヨリ同年八月三十一日迄トス

但試験ノ狀況ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第二條 試験ノ爲メ出漁スヘキ日數ハ前條ノ期間内ニ於テ五十日以上タルヘシ

但シ天候其他特別ノ事情ニ依リ出漁シ難キ場合ハ此限ニアラス

第三條 試験施行ノ場所ハ相摸海トス

第四條 本試験ノ爲メ左ノ漁具漁船ヲ供給ス

- 一、新調セル鯉鮪沖取網 壹 統
- 一、發動機付手船 壹 艘

但本船ハ八月十五日限リトス

第五條 本場ヨリ漁夫賃金ノ補給トシテ金六百圓ヲ交附ス

但漁業時期ノ央ヲ過クルトキハ其半額業務終了後其殘額ヲ交付ス

第六條 被囑託者ハ左ノ義務ヲ負フモノトス

- 一、本場ヨリ供給セル漁具漁船ノ保管
- 二、網船二艘、手船一艘ヲ準備スルコト
- 三、試験ニ必要ナル漁夫ヲ供給スルコト
- 四、發動機船ニ要スル油類其他ノ消耗品及乗組員ノ賃金ヲ支辨スルコト

命令書

五、試験中に生ずル漁具ノ小修繕ヲナスコト
 六、試験ニ要スル諸雜費ヲ支辨スルコト

第七條 漁獲物賣拂代金ノ内ヨリ前條ニ記載セル被囑託者カ支出セル諸經費(漁船ノ新調費ヲ除ク)ヲ控除シ尙剩餘金ヲ生
 スルトキハ左記ノ例ニ處分スルモノトス

- 一、剩餘金壹千圓迄ハ百分ノ七十ヲ被囑託者ニ百分ノ三十ヲ縣ノ所得トス
- 二、剩餘金貳千圓迄ハ百分ノ六十ヲ被囑託者ニ百分ノ四十ヲ縣ノ所得トス
- 三、剩餘金二千圓以上ナルトキハ二等分シ縣ト被囑託者ト各其ノ一分ヲ所得トス

第八條 漁獲物ハ試験監督吏員ノ承認セル方法ニ依リ賣却シ其代金ハ被囑託者ニ於テ保管スヘシ

第九條 小田原町ニ於テ漁獲物ヲ處理スル場合ニハ東西兩魚市場ニ交互又ハ半額宛賣却スヘシ

第十條 被囑託者ニ於テ解除セラレタル場合ハ既ニ交付セル補給資金ノ一部又ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 試験終了後二十日以内ニ業務日誌及收支計算書ヲ本場ニ提出シ同時ニ剩餘金ヲ納入スヘシ

第十二條 本試験ノ施行順序、方法等ニ關シテハ本場ヨリ派遣セル監督吏員及農商務省水産講習所ヨリ特派セル監督官
 ノ指揮ニ從フヘシ

第十三條 本命令ニ違反シ試験ノ遂行ノ見込ナシト認ムルトキハ囑託ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 本場ニ於テ必要ト認ムルトキハ本命令ヲ變更スルコトアルヘシ

但シ剩餘金ノ分配率ハ變更ヲ加フルコトナシ

右命令ス

漁具ノ設計及構成

本試験ニ使用スベキ漁具ノ設計ヲ水産講習所ニ囑託セシニ同所技師川合角也氏專ラ擔任セラレタリ

從來本邦ニ於テ鯉及鮪ニ對シ網具ヲ使用スル沖取網ハ僅ニ高知縣ニ於ケル大網及巾着網、宮城福島兩縣ノ卷網ト本縣及靜岡縣ニ於ケル揚繰網而已ナリトス而シテ高知縣ノ大網及巾着網並ニ宮城、福島兩縣ノ卷網ハ共ニ網裾ノ海底ニ達スル場所ニ限リ使用セラレ前者ハ網具構成及使用法ハ縛網或ハ改良揚繰網ニ類シ後者ハ卷網ニ似タリ而シテ其理由ハ明白ナラザルモ實際ニ於テ深海ニ使用セラレズ獨リ本縣及靜岡縣ニ於ケル揚繰網ハ潮流及海流ノ強速度其他ノ故障ナキ限リハ何レノ場所ニ於テモ使用シ得ベシト雖モ前記ノ如キ欠點アリテ之ヲ設計スルニ方リ殆ド準據スベキ處ナキモ本漁業ニ對シテハ巾着網式ハ最も合理的ナルヲ認メ同様式ニ基キ設計ヲ爲スコト、セリ然レドモ本試験ハ從來揚繰網漁業ニ從事セル當業者ニ囑託シ試験ヲ施行スベキ計畫ナルガ故ニ獨リ設計者ノ考案而已ニテ決定シ難キ事情存在セシト魚群ノ游泳並ニ網具ニ對スル恐怖ノ程度等不明ナル點アルニ依リ當業者ノ意見ヲ徵センニ網ノ長サ網丈、網目、網糸ノ太サニ關シ異論續出セシガ要スルニ當業者ノ意見ニ從ヒ設計センカ巾着網トシテ其ノ使用ハ殆ド不可能ナリ又設計者ノ適當ナリト認ムル構成法ニ據レバ魚群ヲ包圍セルノ後或ハ網具ヲ破壊セラレ、ノ悞レアリ不得止兩者ヲ折衷シ左ニ記載セルガ如キ漁具ヲ調製スルニ至リタルモノトス

網具構成(左右同形ナルヲ以テ其一方ヲ記ス)

一、袖 網 總價五二一圓五三〇 總重一二七貫八一〇

(1) 綿糸三子右燃六號四寸目一〇〇掛蛙股編

三一六間四反 計 一、二六四間

價額一〇〇間ニ付 二六圓七五〇 計金三三八圓一二〇

漁具ノ設計及構成

重量一〇〇間ニ付六貫五六〇 計八二貫九二〇

同 七〇掛

三二六間一反 計三二六間

價額一〇〇間ニ付 一九圓〇〇〇 計金六〇圓〇四〇

重量一〇〇間ニ付 四貫四六六 計一四貫一一〇

綿糸三子右撚六號五寸目一〇〇掛蛙股編

三一六間一反 計三一六間

價額一〇〇間ニ付二五圓七五〇 計金八一圓三七〇

重量一〇〇間ニ付六貫三二〇 計一九貫九七〇

綿糸三子右撚八號三寸目一〇〇掛蛙股編

一五間八反 計一二〇間

價額一〇〇間ニ付三五圓 計四二圓〇〇〇

重量一〇〇間ニ付九貫一七五 計一一貫〇一〇

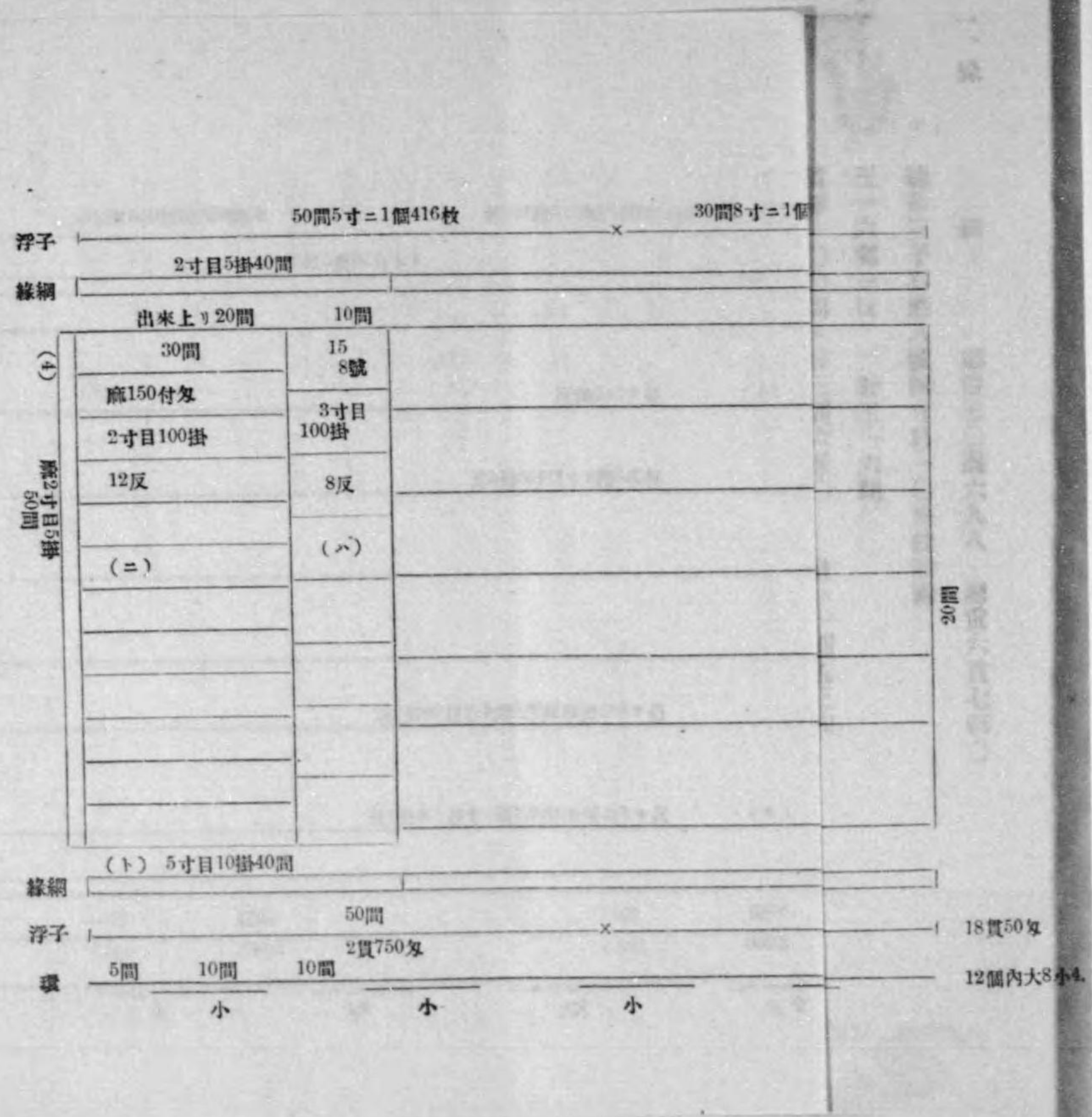
取 總價三二四圓〇〇〇總重七三貫〇〇〇

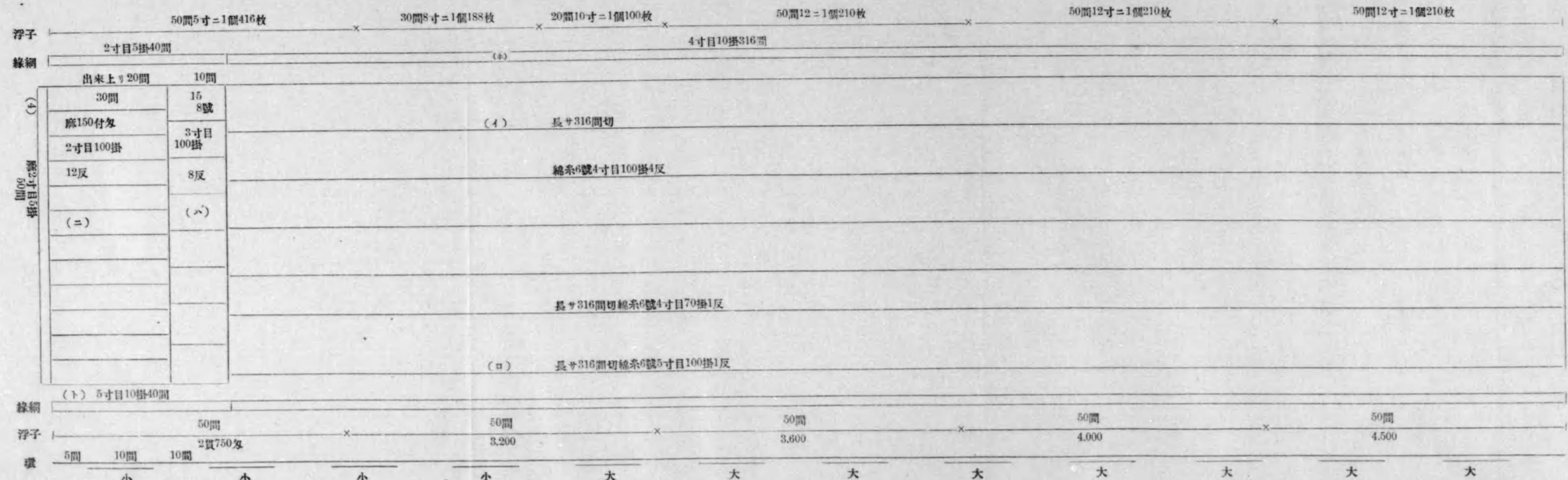
野州麻三子右撚二寸目一〇〇掛蛙股編一間一〇〇反付

三〇間切一二反 計三六〇間

價額一〇〇間ニ付九圓 計金三二四圓〇〇〇

重量一〇〇間ニ付一〇貫一四〇 計七三貫〇〇〇





20間

18貫50匁
12個内大8小4

一、縁

網

總價三〇圓六九八 總重六貫七四〇

(キ) 綿糸三子右撚八號四寸目一〇掛蛙股編

三一六間一反 計三一六間

價額一〇〇圓二付三圓六五〇 計一一圓五三四

重量一〇〇圓二付八六三匁 計二貫七三〇

(ヘ) 右同五寸目

三一六間一反 計三一六間

價額一〇〇圓二付三圓六五〇 計金一一圓五三四

重量一〇〇圓二付八八二匁 計二貫七九〇

(ト) 野州麻三子右撚五寸目一〇掛蛙股編 身網コリ稍太糸(間一四匁付)

四〇間一反 計四〇間

價額一〇〇圓二付六圓六〇〇 計金二圓六四〇

重量一〇〇圓二付一四匁 計四一〇匁

(チ) 右同糸二寸目五掛

五〇間一反 計五〇間

價額一〇〇圓二付四圓七〇〇 計金二圓三五〇

重量一〇〇圓二付八匁 計四〇〇匁

(リ) 右同糸四寸目一〇掛

漁具ノ設計及構成

品名	数量	単価	金額	重量
綿糸三子右撚八號四寸目一〇掛蛙股編	316	3.16	1002.650	8630
右同五寸目	316	3.16	1002.650	8820
野州麻三子右撚五寸目一〇掛蛙股編	40	2.64	105.600	140
右同糸二寸目五掛	50	2.35	117.500	800
右同糸四寸目一〇掛	50	2.35	117.500	800
合計	712		2225.900	20250

四〇間一反 計四〇間

價格一〇〇間ニ付六圓六〇〇 計金二圓六四〇

重量一間ニ付一四匁 計四一〇匁

一、浮

子 總價一五六圓 總重五七貫三〇〇

コルク圓塼形徑三寸五以上厚二寸四以上(一寸二以上ノモノ二枚合)

配置別紙圖面ノ通り 計一三〇〇個

價額一個ニ付(二枚合)一二錢 計金一五六圓

重量一個ニ付四四匁 計五七貫三〇〇

一、沈

子 總價一六圓三二〇 總重二〇貫四〇〇

鉛圓塼形重量三四匁付

配置別紙圖面ノ通り 計六〇〇個

價額一貫ニ付八〇錢 計金一六圓三二〇

重量一個ニ付三四匁 計二〇貫四〇〇

一、環

總價八圓四〇〇 總重八貫六四〇

亞鉛鍍鐵內徑二寸五 重量八二〇匁付

配置別紙圖面ノ通り 計八個

價額一貫ニ付九七錢六 計金六圓四〇〇

重量一個ニ付八二〇匁 計六貫五六〇

一、浮

子 網

上棕栝三子撚徑三分、一一〇間二貫付

二七五間二本 計五五〇間

價格一〇貫ニ付二〇圓 計金二〇圓

重量一一〇間ニ付二貫 計一〇貫

一、沈

子 網

上馬尼刺網徑三分五、一〇〇間三貫〇五〇付

二五〇間二本 計五〇〇間

價額一〇〇斤ニ付二〇圓 計金二五圓

重量一〇〇間ニ付三貫〇五〇 計一五貫二五〇

一、環

子 網

上馬尼刺網徑七分(片袖ハ右撚他ハ左撚)一〇〇間一一貫四〇〇付

三〇〇間 計三〇〇間

價格一〇〇斤ニ付二〇圓 計金五七圓

漁具ノ設計及構成

一、手

重量一〇〇間ニ付二一貫四〇〇 計三四貫二〇〇

網

上 棕栢網徑五分 一〇〇間ニ付五貫
六〇間 計六〇間

價額一〇〇間ニ付二〇圓 計金六圓

重量一〇〇間ニ付五貫 計三貫

一、分

銅

上 馬尼刺網徑五分 一〇〇間七貫五付

四〇間 計四〇間

價額一〇〇斤ニ付二〇圓 計金五圓

重量一〇〇間ニ付七貫五 計三貫

一、燃

炭

亞鉛鍍鐵

一個 計一個

價額一個ニ付一圓 計金一圓

重量一個約五〇〇匁 計約五〇〇匁

一、雜

用

縫糸綿糸六號 代金一七圓一二 重量七貫
總價四七圓四六〇 總重一六貫五〇〇

一、染

麻糸(網糸ヨリ稍太シ)代金九圓五〇〇 重量三貫

浮沈子結糸二五號代金一六圓 重量五貫

かご糸 綿糸二〇號代金四圓八四 重量一貫五〇〇

網 總價七一圓〇三〇

(イ)

コイルター 一罐正味九升

七一罐 計七一罐(重量約二八四貫)

價額一罐ニ付七〇錢 計金四九圓七〇〇

食鹽 乾燥網地 積載ノ際撒布用

六貫 價額一圓〇三〇

(ハ)

松薪 コイルター煮沸用

二五把 價額二圓

(ニ)

染網乾燥取入人夫

二五人 賃金一五圓一〇〇

(ホ)

染網用器具損料 金三圓二〇〇

一、網

仕立

人夫三九人 賃金二三圓四〇〇

一、分

銅 鉛

一個二三貫三〇 平均重量二二貫九一〇 價額二七圓五〇〇

一個二二貫五二

漁具ノ設計及構成

一、滑車 總價二八圓一六〇 總重七貫三〇〇

(イ) スナツチブロック八吋輪砲金製

四個價額二六圓 重量五貫六三〇

(ロ) シングルブロック八吋

一個價額八九錢 重量七〇〇匁

(ハ) ダブルブロック八吋

一個價額一圓二七〇 重量九七〇匁

一、ダビット 鐵材徑二寸一分

一個價額一五圓五〇〇 重量一七貫六〇〇

部類	重	量	價	額
網地縫糸	二一九	〇五〇	九〇七	六八八
浮子	五七三	〇〇〇	一五六	〇〇〇
沈子	二九五	〇〇〇	二五七	二〇〇
諸網類	六七四	〇〇〇	一二四	〇〇〇
小計	三三三	三三〇	一、二一三	四〇八
分銅及網、滑車、ダビット	五〇八	一〇〇	七六一	一六〇
網染及仕立賃	四二四	一五〇	一、三八三	九九八
兩袖合計	八四八	三〇〇	二、七六七	九九六

備考 網地等ノ重量ハ總テ染料ヲ施サザル以前衛リシモノナリ

附言 染料

網具染料トシテ「コールター」ヲ使用セントスルヤ當業者ヨリノ非難多カリキ然レドモ期スル處アルヲ以テ斷然之ヲ採用シタルニ果シテ著シキ効力ヲ認メ得タリ

現今我國ニ於テハ僅ニ「オッタートロール」網ノミニ限リ使用スルト雖モ英國ニ於テハ「ワッタートロール」及「ビームトロール」網ニ使用シ合衆國ニ於テハ「鍊刺網」及「鯖巾」若シテ「ワッタートロール」「ビームトロール」網并ニ「鍊刺網」等ハ漁具トシテハ比較的容積少ク從テ之ヲ染ムルニ特別ノ設備ヲ要セザレドモ鯖巾若シテ「ワッタートロール」網ニ至リテハ容積非常ニ大ナルガ爲勢ヒ染網設備ノ必要アルト分業的ノ慣習トハ其設備ヲ完全ナラシメ多年ノ熟練ト相俟テ染網上些ノ遺漏ナカラシムルト雖モ今回製作セル鯉、鯖沖取網ハ亞米利加ニ於ケル鯖巾着網ヨリ遙ニ容積大ナルガ故ニ一層完全ナル染網設備ヲ必要トスレドモ僅ニ一統ヲ染ムルガ爲ニ多大ノ費用ヲ投ズルコトヲ許サズサレバ不得止姑息ノ方法ニ依リシヲ以テ甚シキ不便ヲ感ジ勞力ヲ浪費シ剩ヘ染網後使用上不便アリシモ而モ其染料効力ニ於テハ偉大ナルモノアリキ左ニ其模様ヲ略記セン

一、染網場設備

水産講習所小田原實習場内吹貫建ノタ、キニ染網盤ヲ据エ其上方屋梁ニ四寸角松材ヲ横ニ緊縛シ更ニ其下部ニ縦ニ同様材ヲ縛着シ以テ壓搾用ニ供ス染網盤ハ約八尺平方ノ亞鉛板ノ三邊ヲ二寸位折り曲ケ縁トナシ此縁ナキ一邊ニ樋ヲ當テ搾出セラレタル「コールター」ヲ受ケ別ニ備ヘタル溜箱ニ導カシム前記盤ニ接シ「コールター」裏沸用釜(口徑二尺ノ鑄釜一個)ヲ据付ケタリ

一、染網方法並ニ結果

煮沸セル「コールター」中ニ生網ヲ投入シ之ヲ盤上ニ引キ出シ配列積載シ其上ニ壓搾用ノ板ヲ横ニ敷キ更ニ縦ニ厚材ヲ置キ此厚材ト前記縦材トノ間ニ螺旋扛重機(スクリュージャック)ヲ入レ以テ壓搾ヲ行ヘリ左記原因ニ依リ網地所々染料濃淡不平均ニシテ網具使用ノ際粘着甚ク勢カラザル不便ヲ感ジタリ

- 一、「コールター」煮沸ノ際火力ヲ用ヒシヲ以テ「コールター」ノ引火スル虞アリテ加熱ヲ充分ニスルコトヲ得ザリシコト
 - 二、網地幅五十間長八十間切ナリシヲ以テ之ヲ染ムルニ「コールター」六釜分ヲ要セシモ六釜分ノ「コールター」ノ熱度ハ到底之ヲ全部平均セシムルヲ得ザリシコト
 - 三、扛重機ヲ用フル際吹貫建ノ梁弱クシテ充分壓搾スルコトヲ得ザリシコト
- 六月二十三日ヨリ八月二十九日ニ至ル六十八間一回ダニ網具ノ乾燥ヲ行ハザルニ綿糸網地些ノ腐蝕ヲ來サズ且ツ「コールター」ガ網具ノ沈降力ヲ増シ水切ヲ良好ニシ其色澤ノ水色ニ勞弊タルトハ魚群包圍ニ利益多シ茲ニ「コールター」ノ効力偉大ナルヲ確認セリ

試験ノ方法

本試験ヲ施行スル爲メ網船二艘、手船一艘其乗組漁夫長一人、漁夫三十八人、石油發動機船一艘(ドゥリー一隻附屬ス)其乗組艇長一人、機關手一人、試験ノ中途ヨリ漁業練習生一人、外監督員三名ヲ以テ一團ヲ組織ス

漁業ノ根據地ヲ足柄下郡小田原トセルニ同地ノ沿海ハ水深極メテ深キモ一帯ノ砂濱ニシテ波浪常ニ高ク錨泊ニ適セザルニヨリ網船及手船ハ出漁毎ニ沿岸ニ引揚ヲ爲セリ尤モ機艇ハ海上極メテ平穩ニシテ天候ニ變動ナキ場合ニハ稀ニ根據地附近ニ錨泊セシムルコトアルモ多クハ真鶴港ヲ錨泊地トシ毎朝同港ヨリ根據地ニ回航シ一日ノ業務終レバ更ニ同港(復歸セリ時ニハ伊豆國網代港ニ避難セル等幾分ノ不便アリシハ地形上止ムヲ得ザリシ處ナリトス

網船ハ最初新造セントスルノ計劃ナリシモ一ヶ年試験ノ上本業ニ適應スベキ船体ヲ新造スルノ利益ナルヲ認メタルニ依リ之ヲ中止シ揚繰網船ヲ充用セントセシニ適當ノ漁船ヲ得ザルヲ以テ錨大敷網ニ使用スル口船肩巾七尺四寸六挺艇付ノモノニ艘ヲ應用セリ

手船ハ肩幅五尺二寸六挺艇付ノ普通漁船トス

七號艇ハケツチ型ニシテ總噸數拾噸東京市池貝鐵工所製拾貳馬力ノ石油發動機付ニシテ其ノ平均速力七節ヲ算セリ

ドゥリーハ七號艇專屬ニシテ投網ノ際網形ノ修整魚群ノ驅逐其他ニ使用セリ

真網、逆網ノ兩船ニハ網具ノ半部宛ヲ積載シ真網船ニハ漁夫長即チ船頭以下漁夫拾六人(時ニハ十七人)逆網船ニハ漁夫十五人乃至十六人乘リ組ミ漁場ニ接近スルヤ兩船ヲ舫ヒ兩網ノ縫合ヲ爲シ魚群ニ遭遇シ投網ヲ爲サントスルニ際シ左ノ配置ニ就ク

艦船、合艦船、脇船(逆網ハ前船)五挺艇六丁艇ニ各二人宛計十人浮子方一人、身網二人、沈子方二人ヲ配置シ投網セリ而シ

テ船頭ハ舳ノ魚見ニ在リテ魚群ノ方向浮沈ニ注意シ手船ノ合圖ニ呼應シ機ノ熟スルヤ一令ノ下ニ投網セシメ網船ノ進退ニ關シ一切ノ指揮ヲ爲ス逆網船ニハ別ニ漁夫長ノ補助一人アリ手船ニハ漁夫六人乗リ組ミ網船ニ附隨シ時ニハ單獨ニ魚群ノ搜查發見ニ勉メ投網前ニハ潮見ヲ爲シ投網スベキ方向ヲ指示シ魚群ヲ驅逐シ且ツ潮流ノ爲メ網形ノ崩潰セシ場合ハ之レガ修整其他ノ補助ニ從事ス機艇ニハ艇長、機關手漁夫二人(網船ノ漁夫中ヨリ乗リ組マシメ投網ノ際網船ニ移乗セシム)ノ外本試験ノ總指揮員其ノ他ノ監督者乗リ組ミ網船、手船ヲ引曳シ漁場ニ至リ魚群ノ搜索發見ニ勉ムルハ勿論魚群ノ驅逐網形ノ修整及漁獲物運搬ヲナサシメタリ

漁具使用法ノ大要

魚群ヲ發見スルヤ機艇ハ舳ヘル網船及手船ヲ引曳シ全速力ニテ其前面ニ進ミ出テ適當ノ位置ニ達シ舳ヲ解カシメ機艇ハ列外ニ出テ手船ト相對シ網口ノ位置ニ就ク網船ノ各漁夫ハ所定ノ任務ニ服シ漁夫長ノ一令ノ下ニ魚取部ノ一部ヲ投シ順次網ヲ繰リ出シ魚群ヲ包圍ス投網半ニシテ魚群ノ方向ヲ轉セントスル場合ニハ機艇及手船又ハ網船ノ舳部ヨリ豫メ用意セル石礫抛拔ニ魚群ヲ網中ニ入ラシムルコト尠カラズ

而シテ網ハ普通潮流ニ順ヒ放出シ兩袖ニ潮流ヲ受け網姿ヲシテ恰モ心臟形タラシムルニ注意セリ既ニ魚群ヲ包圍シ終レバ直ニ全力ヲ注ギ環網ノ縮括ニ從事スルト同時ニ兩網船ノ舳間ヨリ魚群ノ逸出ヲ防止スル爲メ手船ハ網船ノ前ニ横ハリ石ヲ投シ又ハ白布ヲ付シタル威竹、威繩ヲ使用シ魚群ヲ威嚇ス

能ク魚群ヲ包圍シ潮流順調ニシテ網形整正シタル場合ハ魚群ヲシテ逃逸セシメタルコトナキモ横サマニ潮流ヲ受け投網シテ未ダ網裾ヲ縮括セザル前甚シク網形ヲ壓潰シ魚群逃脫ノ虞レアル場合ニハ手船ドゥリー又ハ機艇ヲ使用シテ網形ノ整頓ニ勉メタリ

試驗日誌

明治四十五年
六月二十二日

出漁準備

同 二十三日 出漁 網具使用一回 天候快晴 南風微

午前六時出帆 南東約十哩ノ沖合ニ於テ魚群ヲ發見シ午後二時半投網セシニ網地こゝるた一染料ノ爲粘着シ全部ノ投出ニ約廿五時間ヲ費セルト第一回使用ニシテ漁夫ノ未ダ慣レザル爲投網中途ニシテ魚群網外ニ逸ス

環網締結ニ一時間半、網ノ繰揚ニ約一時間ヲ費セリ魚群搜索及網船曳用トシテ水産講習所ヨリ回航セル七號艇本日正午小田原着直ニ漁場ニ向ヒ午後三時到ル

午後八時小田原歸港

同 二十四日 出漁 網具使用一回 (爾後略シテ) 快晴 南風微後和

午前七時半出帆 網船手船ハ七號艇ニ曳カレ(爾後七號艇曳船ノ記載ヲ省略ス)南東ニ約六哩進航シ針路ヲ東ニ轉ジ大磯沖ニ至リ更ニ南西ニ航走シ午後三時四十分鯉群ヲ發見シ投網セシニ約半バニシテ魚群網外ニ脱出セリ

出漁ニ先チ網ノ繰越ヲ行ヒ層々食鹽ヲ撒布シ網地ノ粘着ヲ防ギシモ猶投網ニ方リ下層ハ固着シ投網頗ル困難ニシテ多クノ時間ヲ費スニヨリ遂ニ魚群ヲ逃避セシメタリ

午後六時歸着

同 二十五日 網具使用法實習 雨後曇 北東風軟

網地ノ粘着ヲ防グ目的ヲ以テ小田原沖約十町ノ海ニ於テ實習ヲ爲セリ試ニ魚取部ノ半部ヲ一時ニ投出セシニ網ノ繰出シ頗ル容易ナルヲ認メタリ仍テ爾後魚群ニ遭遇セシ場合ハ此方法ニヨレリ

同 二十六日 出漁 投網一回 漁獲 曇 北東風微

午前六時半出帆 南東ニ進航スルコト約十六哩、午前十一時鯉群ヲ認メ投網セシニ能ク之ヲ包圍シ鯉(中)千六百餘尾ヲ獲タリ

投網七分間、締結五十分間、繰揚一時間半
午後四時半歸港

同 二十七日 出漁 投網一回 時々曇 南風弱 氣温二四・六 水温二二・六
比重一〇三六(一〇三五)

午前六時半出帆 南東微東ニ進航シ午前十一時大磯岬ノ北東十二哩ニ至リ針路ヲ南ニ轉ズ午前十一時半鯉群ヲ認メ未ダ網ノ半ヲ繰リ出サバルニ魚群網外ニ逸出セシニヨリ中止ス網目ニ刺サリタルモノ一尾ヲ獲

午後六時歸港

同 二十八日 出漁 晴 南東風疾 氣温二四・九 水温二二・六
比重一〇三五(一〇五四)

午前七時出帆 南東微東ニ航シ魚群ヲ搜索セシモ發見スルニ至ラズ加フルニ風力漸次強大シ作業困難ナルニヨリ午後三時歸港ス

同 二十九日 出漁 投網一回 漁獲 快晴 南風微 氣温二四・七 水温二二・九
比重一〇三六(一〇三五)

午前七時出帆 南東微南ニ進航シ午前九時三十分鯉釣船ニ近ヅキ投網ス
漁獲物きはだ鮪三二四尾、鯉八一〇尾、めぢ鮪三尾

此日午前十時前後各所ニ魚群ヲ認ム

同 三十日 出漁 投網一回 漁獲 快晴 南風微 氣温二四・五 水温二二・六
比重一〇三五(一〇五四)

午前七時二十分出帆 南東微南ニ進航シ午前十時頃ヨリ所々ニ魚群ヲ見ル午前十時十五分投網能ク魚群ヲ包圍シ網ノ繰

リ揚中一部ニ破損ヲ生ゼシタメ逃避シ僅ニ八尾ヲ漁獲セリ
此日水産局鈴木漁政課長乗船ス

七月 一日 出漁 晴 南風和 氣温二五・六 水温二三・五
比重一〇二二・〇(一〇二四・五)

午前七時出帆 南東ニ進航シ魚群ヲ搜索セシモ海水濁濁シ魚群ヲ認めズ加フルニ風力漸次強大ニシテ作業困難ナルヲ認
メシニヨリ歸帆
午後二時小田原着

同 二日 出漁 投網一回 晴 北東風後南風微 氣温二三・八 水温二二・三
比重一〇二三・八(一〇二四・六)

午前六時四十分出帆 東南微南ニ進航シ午前九時半鯉群ヲ認め投網セシニ魚群逆網船ノ艙部ヨリ脱出セリ午後一時再魚
群ヲ認め追跡スル約半時途ニ投網ノ機ヲ得ズシテ止ム同二時半ニタビ魚群ヲ認め南東ニ向ヒ追跡セシモ途ニ解散シ去レ
リ
午後七時歸港 雨降リ後豪雨トナル

同 三日 休漁 曇 南風弱

波浪高ク荒天ノ模様ナルニヨリ休漁ス

同 四日 出漁 晴 西南西風和 氣温二三・四 水温二二・八
比重一〇二三・〇(一〇二四・九)

午前六時三十分出帆 南東又南々東ニ進航シ魚群ヲ搜索セシモ潮色悪シク途ニ魚群ヲ発見セザルニヨリ午後一時歸帆同
三時半着

同 五日 出漁 投網一回 漁獲 晴 南々西風弱 氣温二三・五 水温二二・七
比重一〇二三・〇(一〇二四・九)

午前六時二十分出帆 南東ニ進帆午前十一時初島ト城ヶ島見通線ヲ通過シ針路ヲ南微西ニ變ズ潮色悪シキ爲メ午前中ハ

魚群ヲ認めズ午後一時鯉釣船ノ見出セシ魚群ヲ包圍シ大鯉二〇〇尾ヲ獲、漁場位置城ヶ島ヲ東北東、大島乳ヶ崎ヲ南西
ニ見ル此投網始ヨリ終マデ二時間半、午後四時三崎港ニ向ヒ同六時三十分入港ス、漁獲物ハ同地ニ處理ス網具ヲ七號艇
上ニ積換フ

同 六日 出漁 投網二回 漁獲 晴 南々西風微 氣温二七・四 水温二四・一
比重一〇三二・八(一〇二五・三 正午觀測)

午前六時半三崎港出帆 南西微南ニ進航ス潮色濁濁午前八時ニ至リ潮色更ル此際水温二三・二比重一〇二二・一、〇二二四

〇六)午前九時三十五分大島ノ北約十五哩ニ於テ鯉群ヲ発見シ同九時四十五分投網半ニシテ魚群ヲ逃避セシメタリ
午後零時二十五分鯉釣船ニ近キ再投網シ鯉三百三十三尾ヲ獲タリ

包圍八分間、縮括五〇分間繰揚五〇分間ヲ要ス

午後二時半北西微北ノ航路ヲトリ同七時四十分小田原歸着

同 七日 出漁 曇 南西風弱 氣温二三・七 水温二三・六
比重一〇二二・〇(一〇二四・八)

午前六時出帆 南微西ニ進航同八時三十五分一小魚群ヲ見出セシモ投網スルニ至ラズ午前十一時針路ヲ北東微東ニトリ

江ノ島ヲ東五哩ニ見ルノ點ニ達セシモ途ニ魚群ヲ発見セズ午後一時五十分北西ニ向ヒ魚群ヲ搜索シツ、午後六時歸港

同 八日 休漁 曇 南風和後強

荒天ノ模様アリ仍テ出漁ヲ見合セ漁具ノ手入ヲ爲ス

同 九日 出漁 晴 南風強

午前六時二十分出帆 南風稍強キニヨリ片浦沿岸ヲ近ク進航シ真鶴前ヨリ専ラ帆走シテ南東ニ向フ途ニ魚群ヲ発見スル
事ヲ得ズ且風力漸次増加シ漁具ノ使用困難ナリト認めシニ依リ午後二時歸港ス

同 十日 出漁 曇 風和 氣温二七・〇 水温二四・〇
比重一〇二二・九(一〇二五・二)

午前六時出帆 正南ニ進航シ午前十時南東ニ轉ジ魚群ヲ搜索セシモ得ルトコロナク加フルニ風力強大シ作業困難ト認メシニヨリ午後一時歸途ニ就キ同三時小田原着

同 十一日 出漁 曇 時々雨 南々西風強

午前六時半出帆 南東ニ進航セシモ風力漸次増加シ刺へ雨ヲ交へ到底就業ノ見込ナキニヨリ午前八時半小田原ニ向ヒ同九時半歸着

同 十二日 出漁 投網一回 漁獲 曇 南風弱 氣温二六・〇 水温二四・五
比重一・〇二八(一・〇二五二五)

午前九時二十分出帆 南東微東ニ進航午前十時半揚網船ノ魚群ヲ包圍セルヲ見ル仍テ針路ヲ東乃至北東ニ採リ正午過茅ヶ崎ニ達セシモ魚群ヲ發見セザルニヨリ午後一時南西ニ轉ジ午後四時四十分真鶴崎ノ東約三哩ニ至リ一小魚群ヲ發見シ同四時四十五分投網(中)三十尾漁獲ス、此魚群包圍時間六分縮括三十五分繰揚一時間午後八時小田原歸着

同 十三日 出漁 曇 時々降雨 南風微

午前六時半出帆 七號艇機關ニ故障ヲ生ジ曳船ニ堪エズ且風力微弱ニシテ遠ク沖合ニ魚群ヲ索メ得ル見込ナカリシニ俄然強風襲來セシヲ以テ真鶴沖ヨリ引き返ス正午歸着夜ニ入り豪雨トナル

同 十四日 休漁 曇 南風強後烈

荒天ニ付出漁セズ漁具船具ノ修繕ニ從事ス

同 十五日 休漁 晴 南風烈

風力烈ナル爲メ休漁

同 十六日 休漁 曇 南西風烈

風力烈ナル爲メ休漁

同 十七日 休漁 晴 南西風烈

風力烈ナル爲メ休漁

同 十八日 出漁 快晴 南風弱 氣温二六・五 水温二二・〇
比重一・〇二六(一・〇二五三三)

午前五時二十分出帆 南西ニ進航端島ヲハナル五哩ニ至ルモ魚群ヲ認メザルニヨリ針路ヲ東乃至北東ニ採リ大磯ヨリ江ノ島沖合ニ至リシモ更ニ魚群ヲ發見セズ

正午北西ニ向ヒ魚群ヲ搜索シツ、午後三時半歸着海水一帯稍濁濁

同 十九日 休漁 快晴 南西風烈

荒天ニ付休漁

同 二十日 出漁(七號艇ノミ) 快晴 南風強

風力強ク作業ノ見込ナキニヨリ一般漁船休漁セルモ七號艇ハ午前六時出帆漁況偵察ノ爲メ真鶴沖ヨリ三崎ナラビ及大島渡合ノ中央迄出デシモ遂ニ魚群ヲ發見セズ鰯一尾曳繩ニテ漁獲セシニ過ギザリキ

午後三時歸港

同 二十一日 出漁 晴 南西風強 氣温二八・〇 水温二二・〇
比重一・〇三八(一・〇二五五六)

午前五時半出帆 南東ニ進航セシモ南西風漸次増加セシニヨリ午前七時針路ヲ北西ニ轉ジ同八時半真鶴崎ノ東一哩ノ點ニ達シ之ヨリ端島方面ヲ搜索セシモ遂ニ魚群ヲ發見セズ

午後二時歸着

同 二十二日 休漁 曇 南西風烈

荒天ニ付休漁

試驗日誌

同 二十三日 出漁 曇 南風微 氣温二二・二 水温二二・〇(二四八三)

夜來ノ降雨午前十時歇ム、正午出帆七號艇機關ニ故障ヲ生ゼシニヨリ米神沖迄漕行ス、午後一時機關ノ修繕ヲ了ル同時ニ針路ヲ北東ニ採リ大磯沖ニ達シ午前三時更ニ南下シ魚群ヲ搜索セシモ遂ニ發見セズ午後四時半小田原ニ向ヒ同七時半歸着

同 二十四日 出漁 曇 北東風強 氣温二二・〇 水温二二・〇

午前六時五十分出帆 南東又ハ南東ノ針路ヲ採リ機走ト帆走トニヨリ江ノ島沖迄魚群ヲ搜索セシモ發見セズ正午ヨリ針路ヲ北東乃至北東微東ニ採リテ帆走シ午後四時國府津沖ニ漕ノ處魚群現出ノ兆候アリシヲ以テ約一時間見張セシモ遂ニ投網ノ機ナク午後六時歸着

同 二十五日 出漁 投網一 曇後晴 北東風微 氣温二二・五 水温二二・五

午前五時五十分出帆 針路ヲ南東又ハ南東微南ニ採リ同十一時北ニ轉ジ魚群ヲ搜索ス午後三時更ニ南西ニ向ヒシニ魚群ニ遭遇セシカバ之ヲ追跡シ同四時二十分真鶴沖ノ南東五漕ニ於テ投網能ク魚群ヲ包圍セシモ潮流急激ニシテ網姿ヲ卵型ニ變ジ且潮行キ上層ハ南東ニ下層ハ西ニシテ逆網裕ヲ吹キ上ゲ環網ニ纏絡シテ縮括シ難キニヨリ其儘網ヲ繰揚グ鯉一尾めち鮪一尾網目ニ刺サリタルノミ午後六時漸ク收網シ同八時歸港

同 二十六日 出漁 投網一 曇 南西風微 氣温二二・〇 水温二二・〇(二四八六)

午前五時五十分出帆 南東ニ航進午前十時半大磯崎ノ南七八漕沖ニ於テ鮪群ヲ認メ投網セシモ機稍早キニ失セシニヨリ投網約半ニシテ魚群ハ其方向ヲ變ジテ網外ニ逸出セリ午後一時十五分收網、更ニ魚群ヲ搜索シ、午後五時小田原歸着

同 二十七日 出漁 投網一 漁獲 快晴 南風和 氣温二二・五 水温二二・〇(二四八六)

午前五時二十分出帆 同七時半國府津沖ニ鯉ノ小群ヲ認メ數回追跡セシモ遂ニ消散セリ同八時半針路ヲ正東ニ採リ大磯崎ノ北三漕ニ至レバ揚網ヲ脱出セル魚群ニ遭遇シテ午前十一時投網ス午後零時二十分繰揚ヲ了リ鯉五〇尾めち鮪百二十尾ヲ漁獲シ午後四時歸港

同 二十八日 出漁 快晴 南風和 氣温二二・〇 水温二二・〇(二四八九)

午前五時五十分出帆 南東微南ニ進航同九時半須賀沖ニ達シ針路ヲ正南ニ轉ズ同十時鯉ノ小群ヲ認メ數次追跡セシモ遂ニ投網ノ機ヲ得スシテ止ム

同 二十九日 出漁 投網 漁獲 曇後晴 南西風微 氣温二二・〇 水温二二・〇(二四九一)

七號艇機關ニ故障ヲ生ゼシヲ以テ出帆遲シテ午前八時トナル、南東微南乃至南東ニ進航シ正午北東ニ轉ズ午後一時半江ノ島ヲ北々東約六漕大磯ヲ北西約八漕ニ見ルノ點ニ於テ投網ス漁獲物鯉一〇〇尾鯉(中)十六尾投網六分間縮括一時十五分間繰揚一時三十分間

分間繰揚一時間

同 三十日 出漁 投網 漁獲 快晴 南風微

午前五時半出帆正東ニ進航スルコト約半時鮪群ノ多數ヲ發見シ内一群ヲ撰ミ之ヲ追跡シ同六時半投網ス中鮪約二千尾ヲ漁獲セリ潮行惡シキ爲メ網形ヲ亂シ且ツ三寸目四寸目ノ網目ヲ潜脱セシモノ幾ンド漁獲ニ二倍セリ包圍五分間縮括五十五分間繰揚一時三十分間

午前十時針路ヲ南東微東ニ採リ江ノ島沖迄搜索セシモ鮪群ノ小群ノミナルニヨリ午後二時針路ヲ北西ニ轉ジ前川沖ニ至リ再ビ小群ヲ發見シ之ヲ追跡セシモ遂ニ消散ス

同 三十一日 出漁 投網 快晴 南風微 氣温二二・五 水温二二・〇

試驗日誌

午前五時出帆 南東ニ進航同九時半大磯沖三湮ノ處ニ魚群ヲ認メ投網セシモ潮工合悪シク且急ナルニヨリ網形ヲ壓潰セラレ魚群脱出ス僅ニ鯉四尾網目ニ罹リタルノミ
午後五時歸港

八月一日 休漁 快晴 南風微

地方ノ慣例ニヨリ休漁

同日 休漁

大喪ニ付謹慎ノ意ヲ表スル爲メ休漁

同日 出漁 快晴 北風微 氣温二九・〇 水温二五・七

午前五時南東乃至南東微南ノ針路ヲ採リ魚群ヲ搜索セシモ遂ニ發見セズ午後四時半歸港

同日 休漁 曇後雨 北東風烈

荒天ニ付休漁

同日 五日 休漁 曇 北東風烈

荒天ニ付休漁

同日 六日 休漁 曇 北東風烈

荒天ニ付休漁

同日 七日 出漁 快晴 南風弱

午前六時出帆 真鶴沖ヨリ大島渡合ヲ搜索シ更ニ大磯沖ニ涉リシモ魚群ヲ認メズ午後四時半歸港

同日 八日 出漁 投網 快晴 南風和後強

午前五時出帆 同十一時茅ヶ崎沖五湮ノ處ニ至リ鯉群ヲ認メ投網魚群ヲ包圍セシモ潮流急ナルニヨリ網形ヲ壓潰セラレ網裾ヨリ逃逸セリ
午後四時歸港

同日 九日 出漁 投網二回漁獲二回 快晴 南風弱後強

午前三時半出帆 同五時小田原ヲ距ル約五湮ノ南ニ於テ鯉群ヲ認メ投網鯉(中)八〇〇尾鯉一五〇尾ヲ獲

同日 九時鯉釣船ノ發見セルモノヲ包圍シ鯉一〇〇尾鯉五〇尾ヲ獲更ニ大磯沖方面ニ搜索セシモ魚群ヲ見ズ午後三時歸港

同日 十日 出漁 投網一漁獲 南風和 氣温三一・〇 水温二六・五 (比重一・〇二二二一〇二五二五)

午前四時出帆 南東乃至南東微南ノ針路ヲ採リ魚群ヲ搜索シ一ノ小魚群ヲ發見セシモ皆沈下シ去リ投網ノ機ナシ

同日 午前九時半七號艇ニ附隨セル鯉數十尾ヲ認メシニヨリ之ヲ包圍セシモ同艇ノ網外ニ越ヘ出ントスル際魚群モ亦逃逸シ僅ニ二尾ヲ獲シノミ午後三時半歸港

本日下午水産講習所長漁況視察ノ爲メ乗船セラル

同日 十一日 出漁 快晴 南風和 氣温二七・八 水温二四・五

午前四時出帆 南東微東ニ進航午前須賀沖ニ達シ鮪群ヲ認メ追驅セシニ魚群ノ沈下ニヨリ遂ニ投網ノ機ナシ午後三時歸港

同日 十二日 出漁 投網 快晴 南風軟 氣温二九・〇 水温二五・五

午前四時出帆 同九時大磯岬ノ南五湮ニ於テ揚網ヨリ脱出セル鮪群ヲ認メ投網セシニ魚群トノ距離稍遠キニ失シ投網

半ニシテ魚群方向ヲ變ジ逆網下ヨリ逃逸セリ

午後三時ヨリ五時ニ亙リ鯉群ヲ追驅セシモ魚足速ク遂ニ投網ノ機ヲ得ズシテ止ム午後七時歸港

同 十三日 出漁 快晴 南風和 氣温二九・〇 水温二六・五

午前四時半出帆 針路南東微東午前十時北東ニ轉ジ前川沖ニ至リ一小鯉群ヲ認メ一時間餘之ヲ追驅セシモ魚足迅速ニシテ遂ニ投網ノ機ヲ得ズ午後一時針路南東ニ更ヘ進航セシモ魚群ヲ發見セズ午後五時半歸港

同 十四日 出漁 晴 南風微 氣温二八・五 水温二六・〇

午前四時半出帆 同六時半小田原沖四哩ニ於テ小鷹丸ニ遭遇ス仍テ同船ト共ニ魚群ヲ搜索セシモ遂ニ得ズ午後四時歸港

同 十五日 出漁 快晴 南風微 氣温二九・〇 水温二六・〇

試驗開始以來曳船且魚見船ノ任ヲ完フセシ七號艇ハ生徒實習上ノ都合ニ依リ本日東京ヘ回航シ千葉縣水産講習所々屬小鷹丸來リ之ニ代ル

午前四時半出帆 南東微南ニ約二〇哩ヲ航シ魚群ヲ搜索セシモ一モ發見セズ午前十一時針路南微西ニ轉ジ午後一時更ニ北々東ニ轉ズ

同 十六日 出漁 快晴 南風弱 氣温二九・〇 水温二八・〇 比重一〇一〇・〇(二三・四七)

午前五時出帆 南進ス同八時北々東ニ轉ズ同八時半一小鯉群ヲ認メシモ數分時ニシテ沈下ス同九時針路南東ニ探ル同十時ヨリ南西乃至北西ニ向テ魚群ヲ搜索セシモ遂ニ發見セズ午後五時歸港

同 十七日 出漁 快晴 南東風疾

午前五時十分出帆 南東微南ニ進航同十一時三崎港ノ西約五哩ニ達スルモ魚群ヲ發見セズ即チ針路南微西ニ變ジ南東風ニ總帆ヲ展開シ魚群ヲ搜索シツ、午後一時半歸港

同 十八日 出漁 投網 快晴 南風和

午前五時十分出帆 南微西ニ進航シ同六時五十分東轉シ同七時二十分更ニ南進シ同十一時北東微東ニ轉ズ正午前方ニ當ツテ揚繰網船ノ魚群ヲ追驅セルモノアリ依テ之ニ向ヒ午後一時揚繰網ヨリ脱出セル魚群ニ對シ投網シ將ニ包圍シ終ラントスルニ揚繰網手船ノ妨グル處トナリ遂ニ逃避セシメタリ

午後三時歸途ニ就キ同六時二十分着港

同 十九日 出漁 投網 曇 東風疾

午前五時十分出帆 東乃至南東微東ニ航進午前十時三浦半島長井ノ西方約六哩ノ點ニ到ルモ魚群ヲ認メズ依ツテ針路南西微西ニ轉ジ約一時間半ニシテ更ニ南西ニ變ズ

午後一時五十分揚繰網船ノ魚群ヲ追驅セルヲ認メシヨリ至リ見シニ鯉群ノ一大集團ニシテ既ニ揚繰網ヨリ脱出セシモノトス午後二時半之ニ向テ投網セシニ半ニシテ魚群ノ方向變轉セシニ依リ投網ヲ中止ス午後六時半小田原ニ歸リシモ波浪頗ル高ク網船ノ曳キ揚グ困難ナリシニ幸ニ小田原町漁業組合員ノ多大ナル幫助ニ依リ無事曳揚ヲ了セリ

同 二十日 休漁 晴 東風強

荒天ニ付休漁

同 二十一日 出漁 投網 曇

午前五時出帆 東乃至南東ニ進航、前日網代港避難ノ小鷹丸ト岩沖ニ會シ南東微南ノ針路ヲ探リシニ午前十時半鯉群ヲ發見シ追跡セシニ鯉群ノ附隨セルヲ認メシモ魚群變轉迅速ニシテ午後二時ニ至ルモ遂ニ投網ノ機會ヲ得ズシテ終レリ

同 二十二日 出漁 投網 曇又晴 東又ハ南風和

午前五時二十分出帆 南東微東ニ進航シ同九時南東ニ變ズ午後一時揚繰網ヨリ數回逃脫セル鯨群ニ向ヒ投網シ包围シ終
ラントスル頃網口ノ空所ヨリ脱出セリ
午後五時歸港

同 二十三日 出漁 晴 南風微

小鷹丸ノ機關ニ故障ヲ生ジ容易ニ修繕整ハザルニ依リ午前七時鰯漕シテ小田原ノ南東五六哩ノ海面ヲ搜索セシモ遂ニ魚
群ヲ發見セス午後四時半歸港ス

同 二十四日 出漁 曇 南風和後強

午前六時二十分出帆 南東ニ航スルコト約十五哩海水濁魚群ノ隻影ヲダニ認メザルニヨリ正東ニ轉ジ午前十一時三崎
ノ西約七哩ニ達シ鯨群ヲ認メ追蹤セルモ遂ニ鯨群ヲ認メザルト風力増加シ作業困難ナルトニヨリ正午北西ニ向フ午後三
時歸港、夕刻ヨリ強雨降ル

同 二十五日 休漁 快晴 南風微

前々日來漁況極メテ不振ナル爲一般鯨船休漁
網船ノ取換及漁具ノ修繕ヲナス

同 二十六日 出漁 晴 北東風強

午前五時出帆 南東微南ニ航シ午前十一時三浦半島長井沖ニ到リシモ魚群ヲ發見セザルニヨリ北西ニ轉ジ沿岸ニ接近シ
テ搜索シツ、午後三時半小田原へ歸着ス

同 二十七日 終了 快晴 北東風暴

本月中旬以來ノ狀況ヲ視ルニ魚群ノ回游極メテ減少シ天候亦荒レントスル模様ナルニヨリ本日ヲ以テ試験ヲ終了スルコ

ト、シ漁具解放乾燥ヲナスニ必要ナル漁夫ヲ留メ其他ヲ解雇セリ
小鷹丸ハ前夜那古ニ向ケ回航セリ

從漁期間 自六月廿三日 至八月廿六日	六五	出漁日數	四九	實習日數	一	休漁日數	一五	網具使用日數	二四	網具使用回數	二六	漁獲回數	一四
--------------------------	----	------	----	------	---	------	----	--------	----	--------	----	------	----

收支計算表 (但被囑託者ニ於ケル經濟)

收入		支出		利益	
金額	摘要	金額	摘要	金額	摘要
二、四七八 ^円 三四八	總水揚高	一四九 ^円 九三三	漁獲物荷揚費及市場口錢	五九〇 ^円 八四〇	剩餘金
六〇〇〇〇〇	縣費補助	五九二八二五	歩合及賞與	一七七二五〇	納附金命令書第八條ニヨル
一六八〇〇	石油空罐賣揚代	一、一二九五〇〇	諸備給及食料	四一三五九〇	差引純利益
三、〇九五 ^円 一四八	計	五二七一二〇	消耗品費		
		九七三三〇	雜費		
		七六〇〇	通信費		
		二、五〇四 ^円 三〇八	計		

漁獲高、市場口錢、及荷揚費明細表

漁獲年月日	種類	數量	水揚高	市場口錢及費	差引手取金
明治四五年六月六日	鯉	一、五六一	五五	三四七〇八	四八〇四二〇
同 六、二七	鯉	一	五〇〇	〇三〇	四七〇
同 六、二九	鮪	三〇七	八一六	〇〇〇	
同 同	めばち	七	九九〇	〇〇〇	
同 同	めちち	三	一八〇	〇〇〇	
同 同	鯉	八一〇	三二〇	六二五五〇	八五六七〇
同 同	鯉	二二	九一七〇	五〇九	八六六〇
同 同	鯉	二〇〇	一三六五〇	九三六五	一二七一三五
同 同	鯉	三三三	二〇五	一三六九〇	一九一八六〇
同 同	鯉	一一	一一〇〇	七三〇	一〇五六〇
同 同	めちち	一〇六	一三七〇	一五五	二四四五
同 同	めちち	一	一一〇〇	〇	一一五四五
同 同	鯉	一五〇	一八〇〇	八〇五〇	
同 同	鯉	一五〇	四〇〇	〇〇〇	
同 同	鯉	四〇	四〇〇	〇〇〇	
同 同	鯉	四〇	八〇〇	六〇八	
同 同	鯉	一、八五一	三三八	二四〇〇	
同 同	鯉	四	九〇〇	〇〇〇	
大正元年 八、三〇	鯉	八六六	二三八	一六五九〇	二二
同 八、三二	鯉	四二	一〇〇	三三八	二二
同 八、三九	鯉	一四二	三三八	一六五九〇	二二
計	鯉	二、四七八	三三八	一四九〇〇	二、〇七七〇
計	鯉	一四二	四八	九三三	三三

備考 漁獲物數量日誌記載ノモノヨリ少キ場合アルハ漁夫ニ慰勞ノ爲給與セシニヨル

試驗ノ結果及改良スベキ要點

本試驗ニ於ケル總水揚高貳千四百七拾八圓餘ニシテ根據地ト下漁期ト同ウセル揚線網(小田原)十統ニ對シ實ニ最高額ヲ占メタリ

又揚線網ハ網具使用回数二十回乃至三十回中僅ニ五六回ノ漁獲ヲナセルニ比シ本網ハ二十六回中實ニ十四回ノ漁獲ヲナシ又一回ニ能ク平均六貫餘ノ鮪三百五十尾及七百尾ノ鯉千二百尾ノ多キヲ漁獲シ以テ本網魚取部網地ノ張力ハ優ニ約三千貫ノ漁獲ニ堪エ猶餘裕アルコトヲ認メタリ

斯クノ如ク本試驗ハ寧ろ意外ノ好果ヲ得タリシト雖モ前ニ網具設計ノ章ニ記セシガ如キ折衷網ハ遂ニ不完全タルヲ免レズ即チ實驗上左ノ欠點ヲ認メタリ

- 一、環網締括ニ一時間内外ノ長時間ヲ要シ網型ヲ崩潰シ易キコト
- 一、魚群圍繞ニ比較的長時間ヲ費スコト
- 一、隨テ魚群ヲ逃逸セシムルコトアリ又使用回数ヲ少カラシムルコト
- 一、網ノ重量重キニ失スル爲メ多數ノ漁夫ヲ要スルコト

而テ魚群ノ游泳并ニ網具ニ對スル恐怖ノ状態ヲ實見セル結果左ノ諸點ヲ改良スルノ必要ヲ認メタリ

- 一、網具全体ノ重量ヲ減ズルコト
- 二、殊ニ袖網地材料ヲ輕減スルコト
- 三、魚取部縁網ノ高サヲ増シ同部全体ノ網丈ヲ増加スルコト
- 四、袖網部浮子ヲ遞減スルコト

試驗ノ結果及改良スベキ要點

以上ノ改良ヲ施シ今回試験ニ使用セルモノヨリモ重量ニ於テ約百十貫餘ヲ減ズルコト

五、専用漁船ヲ建造シ且相當ノ設備ヲナスコト

(イ) 從來ハ漁具ヲ胴間ニ積ミ入レタルモ舷ノ間及胴ノ間ノ一部ニ積ミ込ムヤウ構造スルコト
(ロ) 従テ表ノ開キヲ減スルコト

(ハ) 舳艫、合舳艫、脇舳ヲ備ヘ前舳ヲ廢シ胴ノ間ヨリ前方ニ六挺ノ舳ヲ立テ總テ九挺舳トスルコト

(ニ) 胴ノ間ニ「キャブスタン」ヲ設備スルコト

(ホ) 胴ノ間ノ中央ヨリ舳ノ間ノ中央迄投網側舷上ニ二個ノ「ローラー」ヲ設置スルコト

六、環ノ間隔十尋ナリシヲ十二尋ニ改ムルコト

七、環網ヲ「ター」染メ麻網トスルコト

八、重量十二貫ノ分銅二個ヲ増備スルコト

漁船ノ新造

前章第五項ニ於テ述ベシガ如クノ専用網船ヲ建造シ且相當ノ設備ヲナスノ必要ヲ認メ大正二年度ニ於テハ速ニ試験ヲ開始セシ爲メ本年度内ニ之ヲ建造セリ之ガ設計ハ農商務省技師春日信一氏ニ依頼シ備付ノ「キャブスタン」ハ亦同氏ノ考案ニ係ルモノニシテ大日本水産會ニ於テ新案特許出願中ノモノタリ

左ニ漁船ノ仕様書並圖面ヲ附ス

鯉鮪沖着網漁船用キャブスタン

本「キャブスタン」ハ小漁船ノ甲板上ニ据付ケ多數人カヲ有効シ且ツ平易ニ合力セシムルノ目的ニヨリ大日本水産會ノ製造ニ係ルモノニシテ在來用手用「キャブスタン」ト異ナル處ハ

一、在來「キャブスタン」ノ加動柄ハ二本又ハ一本ナルニ反シ本機ハ之ヲ四本トナシ在來「キャブスタン」ニ倍加セル人數ガ同時ニ加動シ得ルコト

二、在來「キャブスタン」ノ速力變化ハ齒車ノ組合セ變化ニ依レルニ反シ本機ハ引網ヲ上下スルコトニヨリ極メテ簡單ニ行ヒ得ルコト等ナリ

鯉鮪沖取網船仕様書

一、一般ノ計畫及工事上ノ注意

本船ハ輕裝快速ヲ旨トシ用材ハ乾燥充分ニシテ節癩欠損等無キ赤身材トシ極テ丁寧ニ仕上グ不用ノ材料ハ一切之ヲ避ケルコト

本船ハ不斷高速力ニ引曳セラレ、漕行セラレ、又舳接ノマ、進航スルヲ以テ固着方ハ特ニ念入ノコト
網具使用上ノ都合ニヨリ前艙(逆網船ハ脇艙)ヲ廢シ總テ九挺舳トシ網間ニ於ル足場ハ回轉式トスルコト
中央ニ廣キ網間ヲ取リ其前方、舳ノ間及表ノ間ハ水密張甲板トスルコト

網ノ間ノ前方ニ「キャブスタ」ヲ据エ其ヨリ後方片舷ニ網卸シ用ノ「ローラー」ヲ設クルコト
帆索ハ「ラツガー」型トシ前帆ノミトスルコト

二、重要寸法 幅七尺五寸、深三尺二寸、敷長二丈九尺

三、敷用材杉 厚三寸、總長二丈九尺、幅二尺二寸

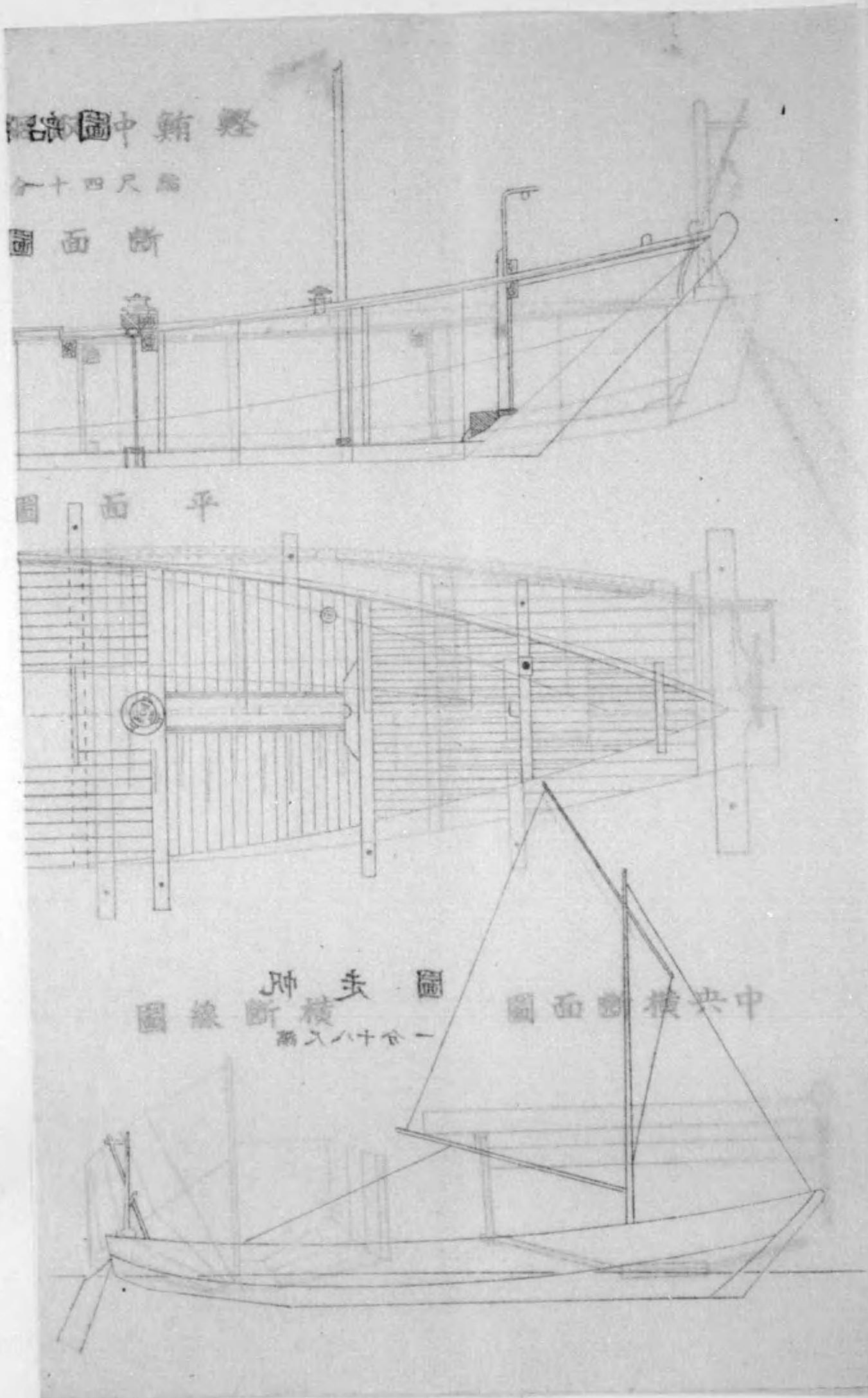
表敷長七尺五寸、反二寸、幅表折ニテ二尺〇五分、足元ニテ四寸、舳敷長七尺、立八寸、幅受尻ニテ一尺三寸
接着法舳付根ニテ六寸鎌接トシ接手ハ折接トス

四、舳 用材樺厚付留前口四寸、同向面三寸、總長八尺九寸、幅付留八寸五分、立五尺六寸

五、戸立 用材杉 厚二寸、高持二尺一寸、切上一尺三寸、幅肩四尺八寸、上肩五尺、カヘリ四寸トス

六、加敷並上棚

用材杉厚一寸二分仕上トス



經中船圖

全十四尺船

断面圖

断面圖

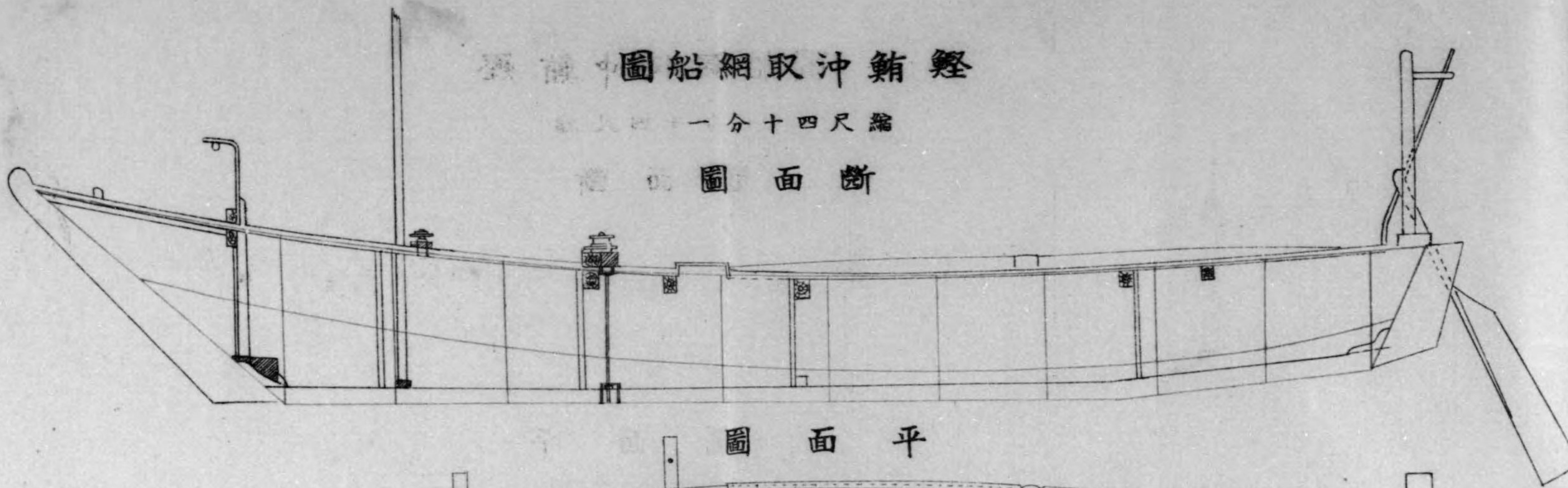
中央橫面圖 船夫圖

全八尺船

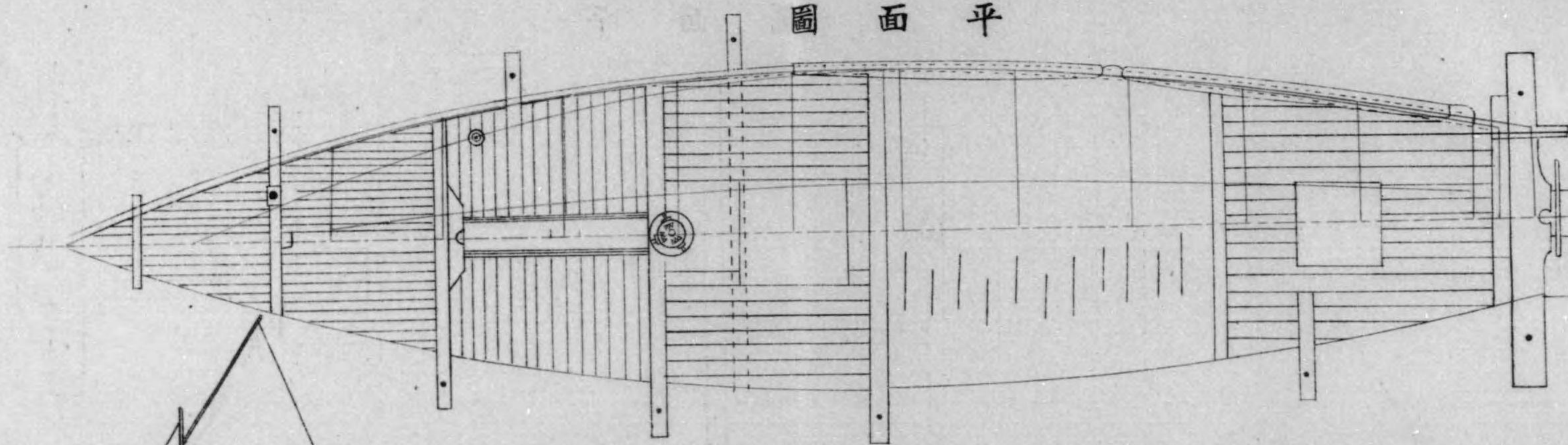
經銷沖取網船圖

縮尺四分一

斷面圖

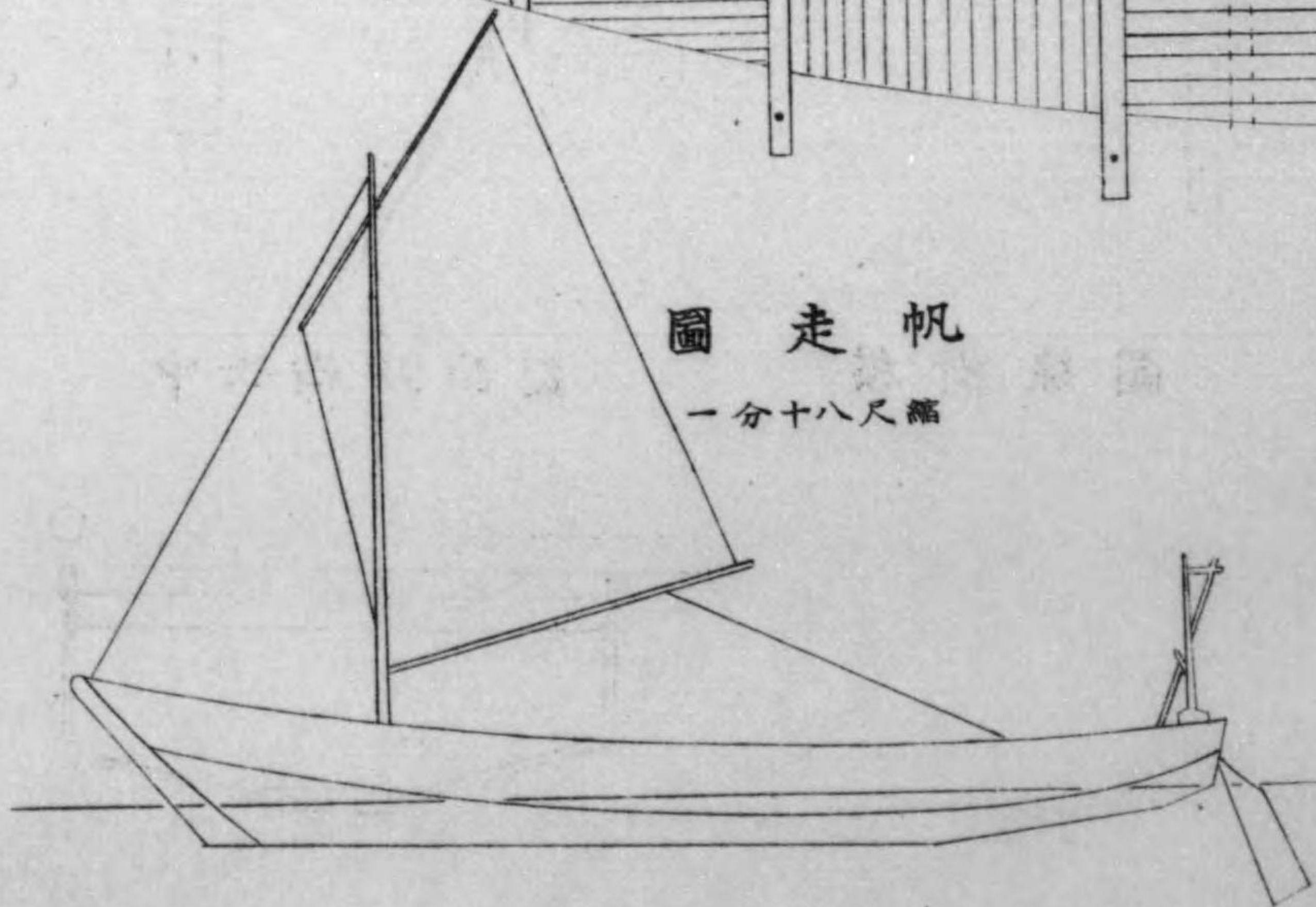


平面圖

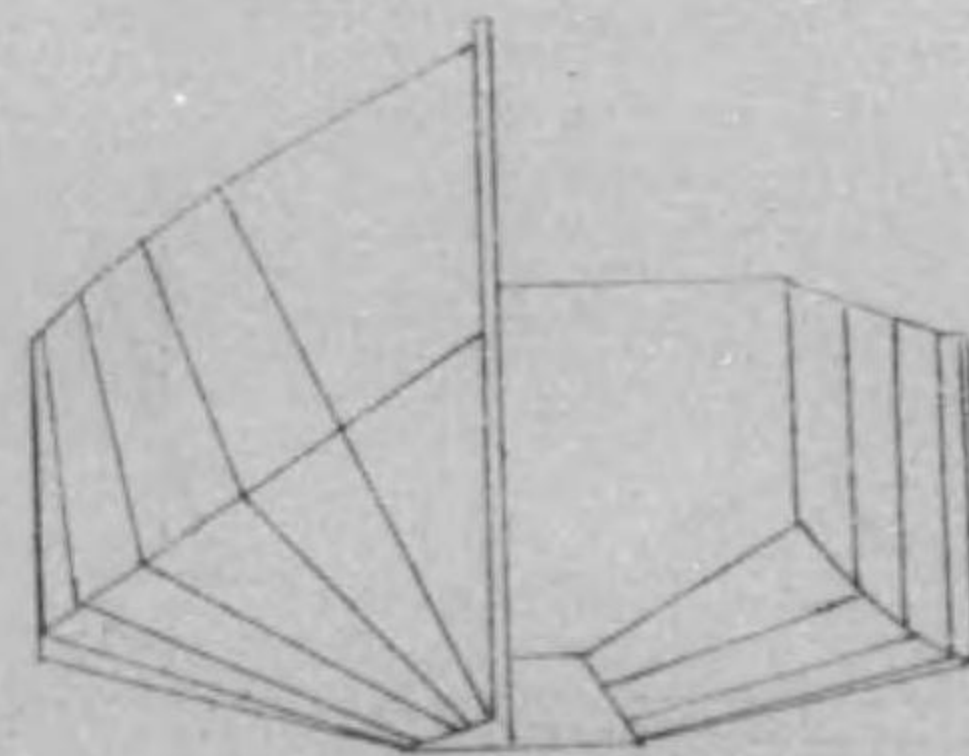


帆走圖

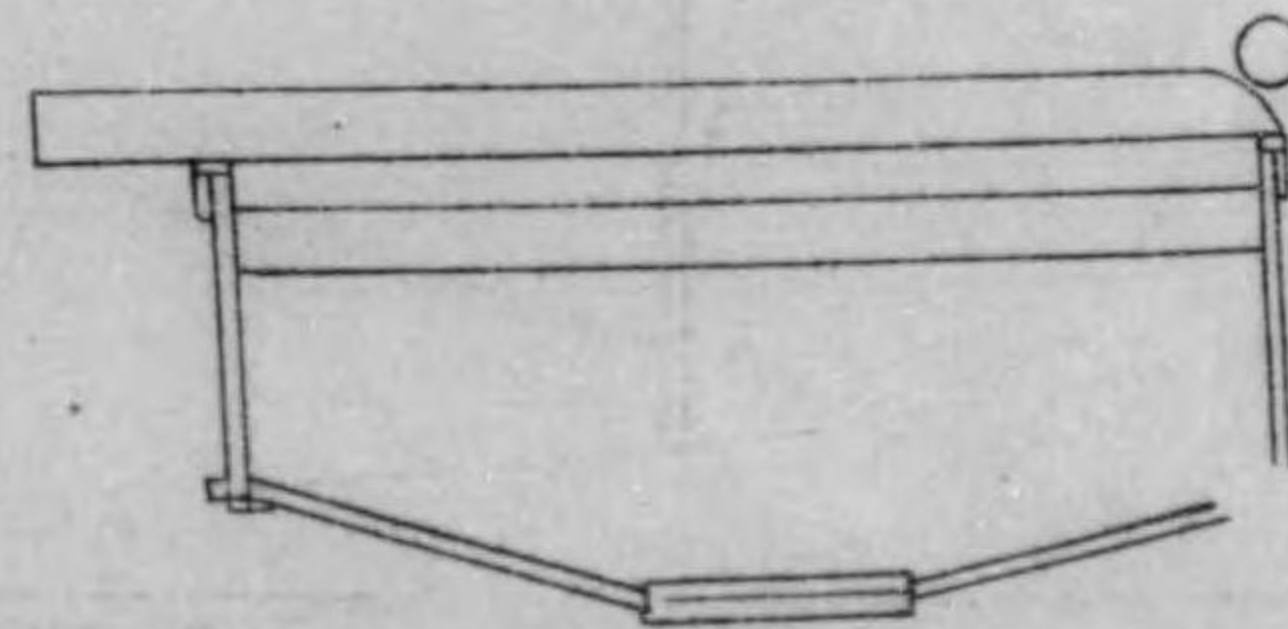
縮尺八分一



橫斷線圖



中央橫斷面圖

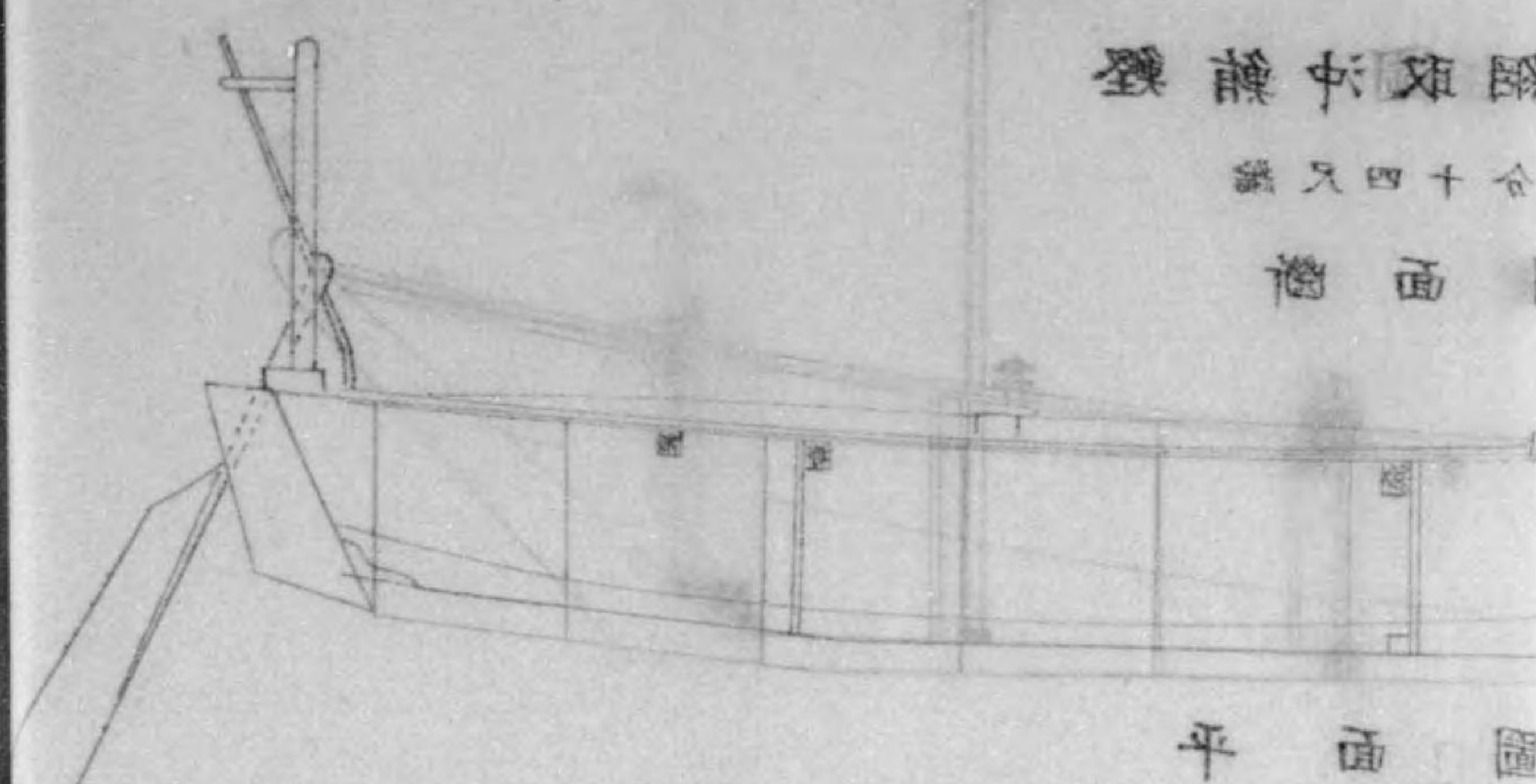


- 三、敷用材杉 厚三寸、總長二丈九尺、幅二尺二寸
表敷長七尺五寸、反二寸、幅表折ニテ二尺〇五分、足元ニテ四寸、艫敷長七尺、立八寸、幅受尻ニテ一尺三寸
接着法舳付根ニテ六寸鎌接トシ接手ハ折接トス
- 四、舳 用材樺厚付留前口四寸、同向面三寸、總長八尺九寸、幅付留八寸五分、立五尺六寸
- 五、戸立 用材杉 厚二寸、高持二尺一寸、切上一尺三寸、幅肩四尺八寸、上肩五尺、カヘリ四寸トス
- 六、加敷並上棚
用材杉厚一寸二分仕上トス

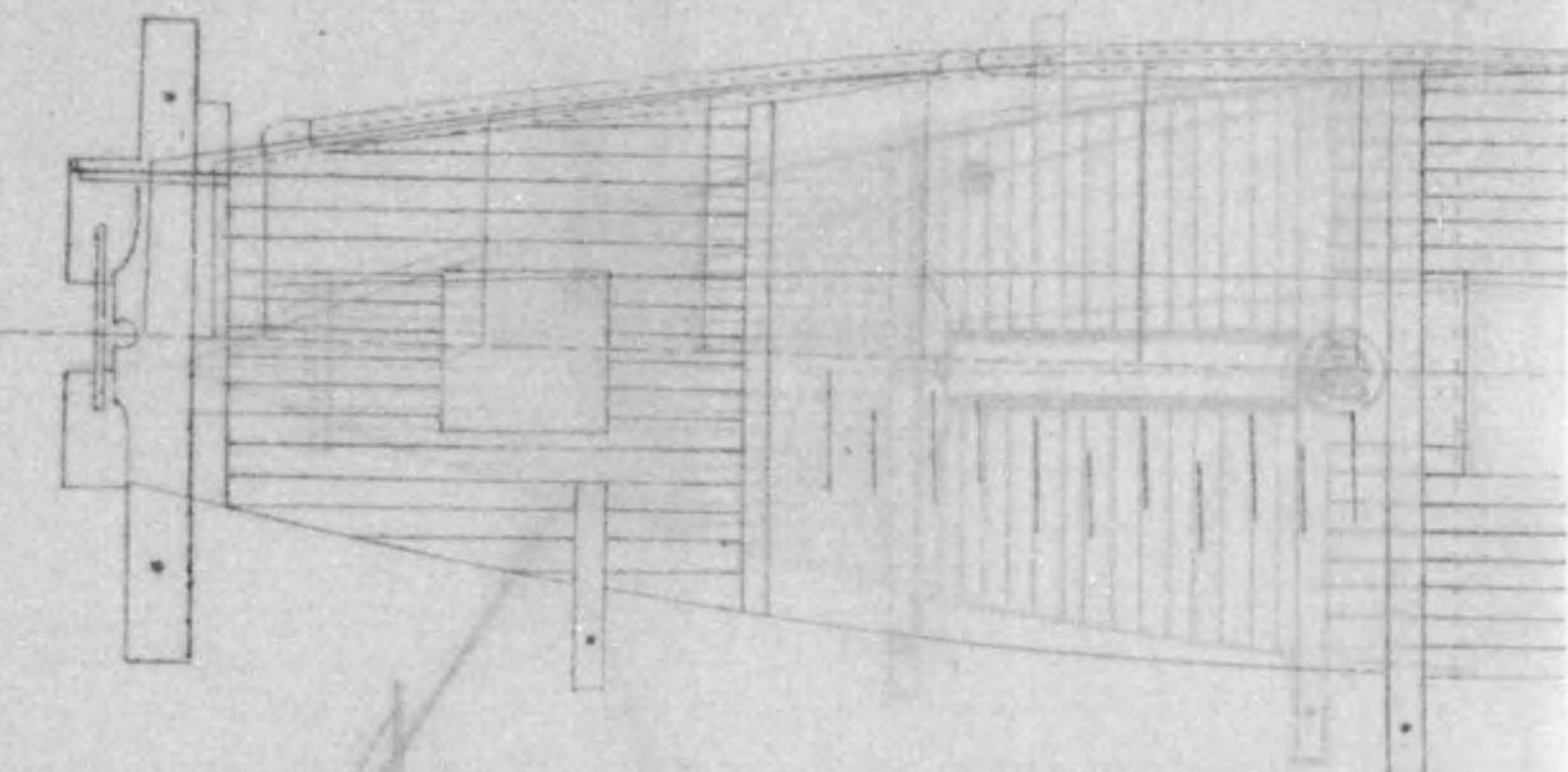
關東中船圖

全四十尺

面

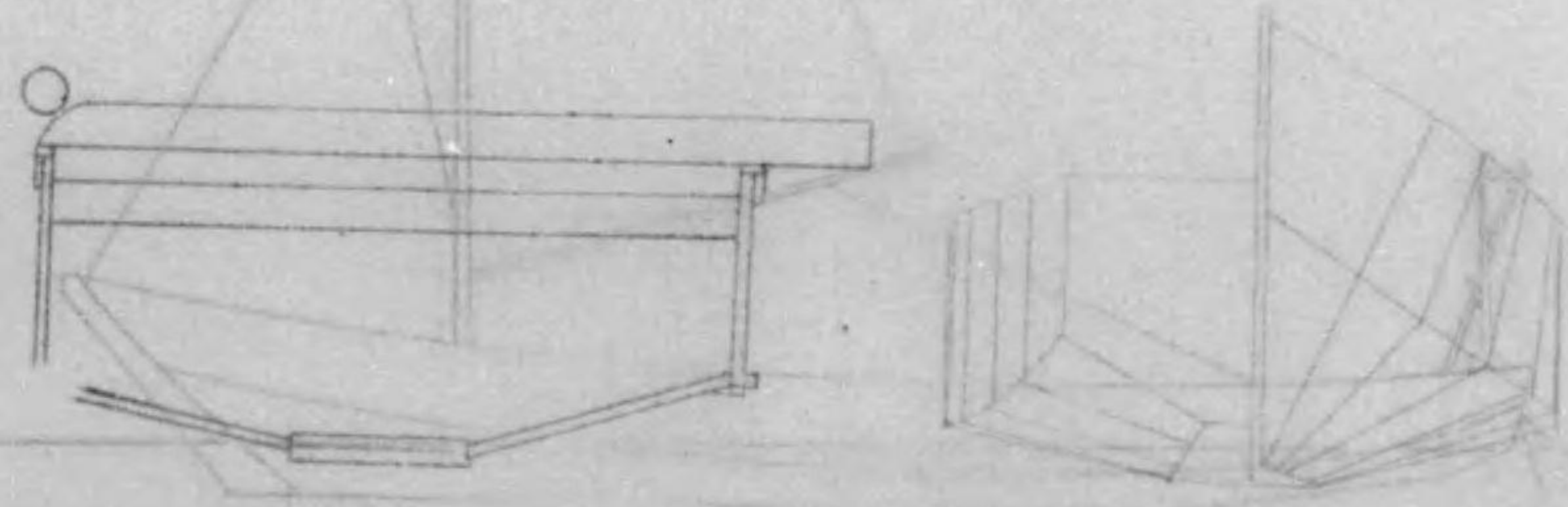


面圖



圖面船中

圖船船



棚	上	敷	加	船圖橫斷部番號
板下	板下	板地	開	三
幅	肩	幅	足	六
二尺	三尺	二尺	一尺	九
四寸	四寸	八寸	二寸	七
四寸	四寸	八寸	八寸	分
二尺	三尺	二尺	八寸	九
五寸	七寸	八寸	七寸	寸
五分	八分	八寸	寸	分
二尺	三尺	二尺	七寸	九
六寸	二寸	二尺	三寸	寸
寸	三分	三寸	五分	分

七、船梁 上船梁用材羅漢柏網間前後及橋持ノ分五寸角其他四寸角上棚上端ヨリ三寸下リ一寸ノ出椽留メトス

下船梁橋持ノ分五寸角其他三寸角トス位置圖面參照ノコト

八、曲材 用材樺厚四寸、幅四寸、腕長一尺九寸、軸付根並ニ戶立受尻ニ用フルモノトス

九、小縁 外小縁用材杉胴間ニ於テ高四寸、幅一寸二分

上載用材一舷他舷杉厚一寸二分、幅二寸四分トス

十、艀床 用材松末口五寸ノ材ヨリ取ル 小縁外ノ出舳舷一尺二寸他舷二尺五寸トス

十一、舵床 用材松厚中部一尺四寸、棚部七寸、兩端四寸、幅中部九寸五分、兩端七寸五分

舵穴勾配五寸トス

十二、龍 用材樺厚二寸、幅三寸五分、高四尺六寸、支柱杉二寸角トス

十三、スベリ、イツズレ、ロアタリ、モヤヒアバラ、チリ等必要ノモノハ一切洩ナク相當造作ノコト

十四、甲板 橋ノ間ハ用材杉厚八分簧板トス

經船沖取網船仕様書

其他用材厚一寸水密張トス「キャブスタン」ノ間及艙ノ間ハ船口ニ覆蓋ヲナス

十五、仕切板 用材杉厚網ノ間一寸二分其他一寸トス

十六、釘 重量約十六貫ヲ用フルモノトス

使用ノ場所	釘ノ間隔	一本ノ重量
加敷ト敷及上棚通シ	五寸	六
棚板	七寸五分	五
敷落	九寸	六
艙上	四寸	八
艙立	四寸	六
小軸	四寸	八
綠等雜釘	四寸	八

十七、櫓及附屬 櫓用材杉五寸角二丈五尺

上桁用材杉徑二寸五分一丈四尺、下桁徑二寸八分一丈五尺

筒、筒持、子持等圖面ノ通リトス

十八、帆 「ラグ」型、十「オンス」帆布ヲ用ヒ其寸法上縁一丈二尺六寸下縁一丈三尺五寸前縁一丈二尺後縁二丈トシ徑四分ノ縁綱ヲ添フ

十九、回轉式足場 前艙床ノ前方五尺ノ位置ニ於テ用材杉厚二吋幅十四吋長二十九吋此内側ニ厚二吋二分一高四吋ノ縁板ヲ附シ鐵製支肘及回轉軸ヲ裝置ス

二十、「ダビット」 鐵製中空外徑二寸高三尺八寸腕長一尺五寸

艙床及仕切板ニ「ダビット」持セテ附シ堅固ニ取付ケノコト

二十一、曳綱「ビット」 用材樺四寸角艙床上五寸ノ出軸材ヨリ縱梁及支材ヲ施シ以テ堅固ニ取付ケノコト

二十二、舵 用材樺厚樺一寸頭徑三寸五分幅水切一尺一寸樺一尺三寸五分床下長八尺トス

二十三、櫓 用材赤樺寸法ハ左表ノ通リトス

名	目	筵	長	腕	長
合、	前、	一丈五尺	五寸	五尺	六寸
其、	他、	一丈四尺	五寸	四尺	四寸五分
		一丈三尺	五寸	五尺	四寸

二十四、「ローラー」 用材樺中央徑五寸端徑四寸長七尺五寸ヲ鐵製幅一吋厚二分一吋乃至四分一吋ノ腕金三筋ニテ挟ミ兩

端ニ於テ之ニ連續スル徑一吋二分ノ一ノ軸ヲ有ス之ガ軸受ハ鐵製ニシテ棚板ニ螺着ス手入船梁ヨリ前方ニ二本ヲ連設ス

二十五、「キャブスタン」 大日本水産會製造用手用「キャブスタン」ヲ据付ク

餌鰻蓄養試驗

試驗ノ主旨

近時鰻漁業日ニ月ニ勃興シ曳テ餌料鰻ノ需用亦大ニ増加シ爲メニ從來ノ活洲籠蓄養法ノミニテハ充分其需用ヲ充タシ得ザルニ至リシヲ以テ種々考究ノ結果網活洲並張網又ハ築堤等ニ依リ灣口ヲ遮斷シタルモノニシラズ(稚鰻)ヲ飼育生長セシメ或ハ成魚ノ短期蓄養ヲナシ從來ニ比シ一層經濟的ニ而カモ常ニ優良ナル餌料鰻ヲ供給シ以テ其ノ需給ノ關係ヲ圓滑ナラシムルヲ得ルニ至レリ

茲ニ千葉、靜岡、徳島等ノ諸縣ニ於テハ斯業大ニ勃興ノ機運ニ向ヘルモ本縣下未ダ更ニ此施設ヲ見ルニ至ラズ然ルニ本縣ハ鰻餌ニ適スル鰻ヲ産スルコト比較的多ク時ニ千葉、靜岡及本縣ノ補助機關附屬漁船ノ出入一日能ク百隻ヲ算スルコトアルヲ見レバ前記ノ如キ一層進歩セル蓄養法ニ依リ更ニ供給ノ途ヲ開キ利益ヲ増加シ得ルノ好位置ニ在ルヲ知ル仍テ本場大正元年度業務ノ一トシテ斯業ノ開發指導ニ力メントセリ尙本試驗ハ既デニ技術並經濟上等ニ於テ成績明カナルヲ以テ本場ニ於テハ專ラ獎勵普及ノ目的ヲ以テ灣口張網遮斷法ニ依リ之レガ蓄養經濟試驗ヲ施行セントセリ

一、位置及ビ地勢

位置ハ縣下三浦郡ノ西部相模海ニ面セル小網代灣ノ一部東北ニ灣入セル蟹田灣トス、小網代灣ハ風波穩カナルヲ以テ漁船々船ノ避難碇泊ニ適シ且ツ從來餌料鰻等ノ好漁場タリ

蟹田灣ハ同郡三崎町小網代及ビ初聲村字三戸ノ兩漁業組合ニ屬スル入合海面ニシテ形、狹長囊狀ヲ呈シ東北ヨリ南西ニ延ビテ小網代灣ニ連リ三面小丘ヲ以テ圍マル其東部ハ岩丘ニ雜木雜草ヲ生ゼルノミナレドモ西部丘陵ニハ松樹雜木等叢生シ北部灣奥ハ數反歩ノ水田耕地ニ接ス

灣ノ兩汀畔ハ岩盤ニシテ底質概ネ細砂ナレドモ北東耕地ニ接スル所幾分ノ坭土ヲ混ズ灣底、平坦ニシテ灣口ニ向テ緩斜シ所々ニ「あじも」ヲ生ジ殊ニ中部以奥ニ多生ス

灣口約三十間奥行約百餘間、總面積概算三千五百坪許ニシテ大千潮時水深十尺ヲ以テ最深部トナス試驗使用水面ハ灣口ヨリ奥行約二十間以奥ナリト雖灣奥ハ千潮時ニ於テ干出又ハ尺餘ニ充タサルノ淺所多ク因テ實用水面積ハ大約千二百坪許ニシテ其最深部最千潮時水深七尺五寸位トス附近潮汐干満ノ差五、六尺ニ及ブ

二、蓄養場ノ設備

設備材料等或ハ些少ノ不便不体裁ヲモ顧ミズ可成試驗地附近ニ於テ得易キモノヲ使用シ灣口ヨリ奥行約二十間口徑三十間ニ狹レル兩岸ノ突岬岩盤ニ穿孔松杭木ヲ嵌入シ之レニ張網ヲ緊張シ尙兩岸網ノ接スル處ハ岸礁ニ小溝ヲ作り其ノ接觸ヲ全カラシム

張網ハ二號綿糸百掛二十二節ノモノヲ六反横縫トナシ「コートルター」ヲ以テ染網ス

浮子部ハ徑二分五厘ノ綿糸網二本ヲ以テ浮子網トナシ之レニ桐製浮子(長サ一尺巾三寸厚一寸二、三分重量六十五匁許ノモノ)ヲ各五寸置キニ結附シ沈子部ハ同様綿網二本ヲ以テ沈子網トナシ各三十匁許ノ鉛製沈子百個ヲ各一尺八寸置キニ附ス仍テ網ハ灣口ヲ遮斷シテ張網セラレタリト雖モ僅カニ自体ヲ浮上定置スルニ過ギザルヲ以テ更ニ浮子部ニハ徑五分五厘ノ棕梠網ヲ添ヘ之レニ末口一寸五分乃至二寸長サ一間ノ桐丸太三本宛ヲ束トシ各間五、六寸置キニ結附シ以テ浮力ヲ強大ナラシメ沈子部ニハ徑六分ノ藁網ヲ副ヘ之レニ約七、八百匁許ノ石塊ヲ各一間毎ニ結付ケ網ノ沈設ヲ強固ナラシメ且ツ網裾ノ土中ニ埋没スルヲ防グ更ニ張網八間毎ニ徑三分ノ綿糸網ヲ以テ張網ノ兩面ヲ挟ミ上縁浮子部ハ特ニ結付シタル醬油空樽ニ結ビ下底沈子部ニ於テハ各十五、六匁匁許ノ土俵二個宛ヲ添ヘテ沈子網ニ結付シ杭ニ代ユル力綱トシ張網ノ布設定着ヲ完カラシメタルヲ以テ張網ハ潮汐ノ干満ニ伴ヒ上下運動ヲナスモ左右ニ移動スルコトナカリキ

船通トシテハ最東部力網ニ附シタル樽部ヨリ(距岸約八間)前記棕柁網ヲ綿糸ノ浮子網ト分離シ別ニ高ク岸上ノ杭ニ緊張シ特ニ此ノ一區間ニハ桐丸太浮子ヲ結附セズ

サレバ此區間ニ於ケル張網ハ他部ニ影響ヲ及スコトナク自由ニ伸縮シ得ラル、ヲ以テ船ノ通行ニ支障ナカラシム

尙張網ヲ離ル、約八間許灣口ニ於テ一尺目ノ藁網ヲ編成シ桐丸太及ビ土俵ヲ附シ兩岸ノ杭ニ緊張シ以テ浮流セル塵芥ノ除網トナセリ

三、蓄養法並蓄養中ノ狀況

本試驗ハ五月初旬ヨリ施行ノ豫定ナリシモ本場創設當初ナリシヲ以テ種々場務ノ關係上時期遅延シ漸ク七月初旬ヨリ開始スルノ止ナキニ至レリ先ヅ場内ニ於ケル雜草主トシテ「あじも」ヲ刈除シ張網布設後ニ於テ雜魚其他害敵トナル可キ魚族ヲ捕獲セリ

採捕セラレタル主ナル魚族ハ「あぢ」「しようさいふぐ」「せいご」「かます」等ナリシモ多ク一、二寸ノ稚魚ノミナリキ鰻ノ放養數量左ノ如シ

七月五日 七月六日 七月七日 合計

四六籠 四五籠 九籠 百籠 但一籠一斗入

蓄養鰻トシテ漁場ニ於テ捕獲セルモノヲ直チニ放養セントセシモ得難カリシニ依リ何レモ小代網灣内ニ於テ捕獲セラレ既デニ五日乃至七日間活洲籠ニ蓄養セラレタルモノヲ用キタリ

カク放養鰻ハ既デニ所謂「活付」ノ状態ニ在リシヲ以テ放養後張網ニ頭突スルガ如キコトナク常ニ群ヲナシテ場内ヲ廻遊セリ殊ニ蓄養場ハ一方開口シ其張網布設部ハ水深ク海水ノ流通宜シキヲ以テ勢ヒ此所ニ集中スルノ傾キアリ然レドモ日没後夜間ハ捕餌ノタメニヤ常ニ一面ニ散遊シ殊ニ暗夜ニ於テ然リトス

斯クシテ放養當初場内天然餌料の生物比較的饒多ナリシト人工餌料ノ得難カリシトニ依リ七月十六日ヨリ投餌セリ

人工餌料トシテハ鹽藏こませ並ニ干燥こませヲ使用シ鹽藏こませハ其儘用ヒシモ干燥こませハ一晝夜海水ニ浸シ投與ニ際シテハ何レモ猶海水ヲ混ジ場内廣ク撒布シ力メテ捕餌ヲ均等ナラシム

投餌分量左ノ如シ

自七月十六日至二十三日 鹽藏こませ 一日ノ分量 一斗五升宛

自七月二十四日至二十八日 鹽藏こませ 一日ノ分量 一斗二升宛

自七月二十九日至八月十八日 干燥こませ 一日ノ分量 一斗二升宛

而シテ放養鰻ハ總テ元氣旺盛ニシテ好ク人工餌料ヲ捕食セシモ既ニ活洲籠内ニ在リテ負傷セシモノ尠カラズ或ハ吻端半透明トナリ或ハ眼球脱出セルモノアリ之レ等ハ群ヲ離レテ遺遊シ遂ニ斃死スルニ至レリ尙放養後ハ夜警ヲ怠ラズ且ツ害魚ノ釣獲ニ力メタリシモ一般鯉不漁ノタメ販賣時期ヲ得ズ蓄養期間六週間餘ニ及ビ就中七月下旬ヨリ捕獲時ニ至ル後半期ハ殆ンド降雨ナク暑氣頗ル激シク水温攝氏三十度以上ニ上昇シ爲メニ蓄養鰻大ニ疲勞シ張網附近ノ深所ニノミ集來シ遂ニ暑氣ニ堪ヘズシテ斃死スルモノ續出スルニ至レリ搗テ、一所ニ集游シテ去ラザルヲ以テ當初捕リ漏セシ害魚ハ漸次死魚ヲ喰シテ生長シ常ニ此所ニ襲來シ喰喰ヲ事トセリ殊ニ八月十六日自午前十時至午後二時半夜光虫ニ因ル赤潮ハ南風ニ送ラレ張網外ニ襲來シ附近ノ海水赤桃色ニ變シ厚ミ五、六寸ノ層トナリ漸次斃死スルモノアリ海水タメニ白濁セリ時恰カモ干潮時ナリシテ以テ一層蓄養魚ノ斃死率ヲ促進増大ナラシメタリ

且ツ張網ハコールタル染料トナセシニ依リ網糸硬固トナリシヲ以テ着生ニ適應セシト其ノ蕃殖時期ニ相當セシニヤ三週間位ヲ經過セシ頃ヨリ一面ニ水垢(硅藻類等)附着シ加フルニヒドラ虫類ニ屬スル群体ノ著シク着生シ日々生長繁殖シ爲メニ海水ノ流通ヲ阻碍スルニ至レリ然レドモ蓄養期間三週間位ノ豫定ナリシヲ以テ張網ノ準備ナカリシニ依リ人夫ヲシテ之レガ除

去ニカメシモ僅カニ水面ヨリ網地二、三反以深ハ如何トモスルヲ得ザリシニ尙益々繁茂シ遂ニ網目ヲ閉塞シ一見網地ハ布ヲ張リシガ如ク海水ノ流通一層悪シク然カモ前記ノ如ク暑氣ハ漸次激烈ナルヲ以テ大ニ斃死率ヲ助長スルニ至レリ

斯クシテ張網ハ重量増加シ加フルニ長期ニ亘リシヲ以テコールドー染不充分ナリシ部分先ヅ裂傷シ曳イテ十八日夜ヨリ十九日ニ及ビテ所謂土用波ノ稍強烈ナル來襲ヲ受ケ一時ニ網地ニ破損ヲ生ジタメニ水ノ交流頓ニ良好トナリシヲ以テ暫ク暑氣ト水ノ交流不充分ナルトニ依リ苦シメラレタル蓄養鱸ハ一勢ニ破損ノ個所ニ突進シ遂ニ逸逃スルニ至レルモ應急ノ防止策ナキヲ以テ止ナク十九日直チニ全部捕獲セリ

四、蓄養期間中ニ於ケル場内ノ水質、水温比重概狀

灣内概シテ撓脚類硅藻類等天然餌料豊富ナリキ

附近ニ水田耕地少ナク底質砂多キヲ以テ水質清澄殊ニ降雨少カリシヲ以テ海水濁濁セルガ如キコトナシ

氣候平順ナリシモ暑氣烈シク殊ニ自七月下旬至八月下旬後半期ニ於テ降雨甚ダ少ナク氣温攝氏二十二度、二乃至三十一度ニ

水温攝氏二十三度二乃至三〇度七ノ間ヲ往來シ比重ハ稍變動多クシテ、〇二一九乃至一、〇二六五四ノ間ノ上下セリ

但シ試験期間中主任者場務ノ都合上不在中ハ觀測欠如セリ殊ニ八月上旬ヨリ十日間除暑氣最モ激シク斃死率著シカリシ際觀測シ得ザリシナリ

試驗期間中觀測セシモノ左ノ如シ

蓄養場内觀測表

月日	天候	風向	風力	午前		午後		備考
				氣温	水温	氣温	水温	
七月五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月九日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十一日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十二日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十三日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十四日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十九日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十一日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十二日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十三日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十四日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養

月日	天候	風向	風力	午前		午後		備考
				氣温	水温	氣温	水温	
七月五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月九日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十一日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十二日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十三日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十四日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月十九日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十一日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十二日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十三日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十四日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十五日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十六日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十七日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養
七月二十八日	快晴	南	軟	三三.六	三三.三	三五.七	三五.四	四十六籠放養

餌飼養試験

五五

二九	三〇	三一	八月	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
曇	晴	晴	晴																		
東南	南	東南	南																		
軟	軟	軟	軟																		
六、〇	六、〇	六、〇	六、〇																		
觀	測	欠	如																		
捕	魚																				
二八、五	二八、五	二八、五	二八、五																		
全	全	全	全																		
上	上	上	上																		

前表ヲ綜括スルニ左ノ如シ

重 比	温 水			温 氣			午前六時	月 日	午後二時	月 日	午後六時	月 日		
	平	最	最	平	最	最								
均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高	均	低	高
一、〇二四三八	一、〇二二一九	一、〇二五八一	二五、五二	二七、六	二七、六	二五、一九	二二、七	二二、七	二二、七	二二、七	二二、七	二二、七	二二、七	二二、七
七月二十九日	七月二十九日	七月二十九日	七月二十五日	七月二十五日	七月二十五日	七月十一日	八月十八日	八月十八日	八月十八日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日
一、〇二四八一	一、〇二二八九	一、〇二六五四	二七、一〇	三〇、七	三〇、七	二八、二五	三一、三	三一、三	三一、三	三一、三	三一、三	三一、三	三一、三	三一、三
七月二十九日	七月二十九日	八月十三日	七月十三日	八月十三日	八月十三日	七月十三日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日
一、〇二四九九	一、〇二二一九	一、〇二六〇〇	二六、六九	二八、九	二八、九	二六、一一	二八、五	二八、五	二八、五	二八、五	二八、五	二八、五	二八、五	二八、五
七月二十八日	七月二十八日	八月十六日	七月二十五日	七月二十五日	七月二十五日	七月十三日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日	八月十七日
シモノ		比重ハ攝氏十五度 (標準温度)ニ換算セ												

五、採捕並其處理

前述ノ如ク蓄養期間中鯉不漁ナリシヲ以テ價額頗ル低廉ニシテ遂ニ一回モ販賣スルノ機ヲ得ザリシニ八月十九日ニ至リ一時張網烈傷セシヲ以テ止ナク小網代漁民ノ地曳網ヲ使用シテ採捕セシニ僅ニ九籠ヲ止メシノミナリキ而テ眞鯉其大半ヲ占ム捕獲後ハ從來ノ活洲籠ニ收容セシニ頗ル穩馴ニシテ全ク活付ケノ状態ニ在リ運動極メテ不活潑ナリシモ体ノ消瘦セルヲ認メズ然レドモ活洲籠收容後漸次斃死スルヲ以テ遂ニ二十一日静岡縣燒津鯉漁業者ニ販賣セリ

六、害 敵

鯉放養前捕獲セリト雖ドモ尙捕漏セシモノアリシヲ以テ常ニ釣獲ニ力メシモ僅カニ「フグ」ヲ獲ルノミナリシガ七月三十日地曳網ヲ以テ五寸内外ノくろだい、せいご、六七寸ノかます、二、三寸ノふぐ若干ヲ採捕セリ時既ニ放養鯉多量ナリシヲ以テ

完全ニ驅除スルヲ得ザリキ

ふぐハ魚体何レヲ問ハズ咀傷ヲ與ヘ斃ル、ニ及ビテ捕食スルガ如キモせいご、くろだいノ斯大ニ生長セルモノハ鱧一尾宛ヲ丸食セルヲ認メタリ尙最後捕魚ニ際シテ一尺内外ノ鯖四尾ヲ獲タリ之レ等ハ主ナル害魚トナス可キモ尙前記ノ如クひごら虫類ノ叢生ニ依リ水ノ交流ヲ阻碍シ同時ニ水溫著シク上昇シ搗テ、八月十六日ノ赤潮ノ如キ亦被害ノ大ナル原因トナルガ如シ

七、收支計算

一金五拾圓也

收入總額

但シ鱧九籠販賣代一籠金五圓五拾錢強替

一金參百七拾八圓五拾八錢

支出總額

内 譯

金貳百五拾圓

餌料鱧百籠購入代一籠平均一斗入
貳圓五拾錢替

金貳拾八圓參拾五錢

餌料用干燥、鹽藏兩コマセ代

金貳拾參圓參拾參錢

消耗品費

金五拾八圓八拾錢

人夫賃定去二ヶ月、月拾五圓宛
臨時人夫四十八人六拾錢宛

金拾八圓拾錢

雜費 漁船借入賃等

差引金參百貳拾八圓五拾八錢

損失

結 論

本試驗ハ經濟試驗ヲ主眼トセシニ左記諸種ノ事由ニ依リ不結果ニ終リ遂ニ目的ヲ貫徹スルヲ得ザリシハ遺憾トスル所ナリ

- 一、鯉不漁ニ依リ販賣ノ機ヲ得ズ從テ豫定期間ノ倍長セシコト
- 二、蓄養後期ニ於テ降雨少ク暑氣烈シク水溫攝氏三十度以上ニ及ビシコト
- 三、赤潮ノ來襲セシコト
- 四、害魚ノ捕獲不充分ナリシコト
- 五、張換網ナカリシコト

蓋シ既往ヲ顧ルニ鯉漁ハ春季四、五月頃盛期ナルモ後暫時漁獲少ナク再ビ七月下旬ヨリ盛時ニ至ルガ如シト雖本年ハ更ニ第二漁期ニ於テ鯉漁ナク出漁船モ空シク歸船スルノ状態ニシテ稍漁獲盛況ヲ呈スルニ至リシハ九月中旬後ニシテ時期頗ル遅延セリ

然ルニ餌料鱧ハ近年稀ナル豐漁ニシテ自然時價低落セリ今一例ヲ小網代灣ニ見ルニ例年同期ニ於テ鱧一籠平均八、九圓内外ナルニ今年ハ最高六圓五拾錢位ニシテ平均貳、參圓ヲ超エザルガ如キ状態ナリシナリ
然ルニ蓄養期間中縣下並ニ近縣ニ於テモ餌料鱧全ク欠乏セシコト再、三ニ及ベルモ更ニ購求者ナク曳ヒテハ價額暴落スルニ至レリサレバ同期ニ於ケル鯉ノ如何ニ不漁ニシテ餌料鱧ノ需用ナカリシカハ推シテ知ルニ難カラザル可シ
水溫、害魚等前述ノ如クニシテ赤潮ニ際シテハ採捕ノ上一時他ノ移蓄スルヲ可トセシモ既デニ暑氣烈シク且ツ水ノ交流不充分ナリシトニ依リ大ニ被勞セルヲ以テ採捕ニ當リテ張網外ニ浮堆セル赤潮ヲ攪拌センハ却テ非ナルガ如クナリシヲ以テ自然消失ヲ待テリ

又張網ハコール染料トナセシヲ以テひとら虫類等ノ附着ヲ助長セルノ感アリト雖一ヶ月間ノ使用ニハ支障ナカリシモ期間倍長五十日ニ及ビシヲ以テ諸種ノ障害ヲ招致シ遂ニ破損ノ箇所ヲ生ズルニ至リシモ經費ノ都合上張換網ノ準備ヲナシ得ザリシヲ以テ止ナク其儘修繕ヲ加ヘツ、經過セリ試驗終了後張網ヲ檢セシニ大部分ハ猶糸質堅牢ニシテ修理スル時ハ使用ニ堪ユ可キコトヲ認メタリ

尙經濟試驗ノ傍ヲ漁場ニ於テ捕獲セラレタル鰻ヲ直チニ放養シ從來ノ籠ニ蓄養セルモノトノ差異ヲ檢シ且ツ從來一般ニ鰻漁者ハ斯カル廣面積ニ於テ飼育セラル、モノヲ直チニ漁船内ノ活魚箱ニ收容シテ出漁スルコト不可能ナルノ疑念ヲ有スルヲ以テ其ノ否ナルヲ實示セントセシモ張網後適當ノ漁獲ナク且ツ鰻不漁等ニ依リ實驗スルヲ得ザリシナリ

今本試驗ニ依リ得タル點ヲ摘示スレバ

- 一、コール染料染網ハ二ヶ月間水中ニ放置スルモ其ノ地質尙堅牢ナルコト
- 二、コール染料染網ハ地質硬固トナルヲ以テひとら虫類等ノ附着ヲ助長スルコト
- 三、一ヶ月以上ニ亘リテ蓄養ノ際ハ換網ヲ必要トスルコト
- 四、蓄養場内ニ在リテハ鰻ヨリモ真鰻ノ方却テ強健ナルコト
- 五、一度活付状態ニ在リシ鰻ハ蓄養場ニ放養スルモ尙活付状態ヲ失ハザルコト
- 六、水温攝氏三十度ニ及ブ時ハ危険ナルコト
- 七、害魚ノ驅除ハ充分遂行ヲ要スルコト

石花菜蕃殖

石花菜ハ縣下三浦、鎌倉、足柄下各郡ノ沿岸ニ産シ殊ニ三浦郡城ヶ島産ノモノハ品質佳良ナリト雖モ從來タノ摘採ヲ事トシ其ノ蕃殖ヲ願ミザリシガ明治四十四年六月水産技手ヲシテ蕃殖奨励ノタメ講話及ビ實地指導セシメ横須賀市、三浦郡適地各漁業組合地先ニ於テ除草投石等ノ方法ヲ實施セシメタリ未ダ著シキ實收ナキト雖モ成績良好ナルガ如ク益々之レガ奨励普及ニカメ前記各所ニ於テモ熱心ニ行ヒツ、アリ尙鎌倉郡ニ於テハ同郡水産會ノ事業トシテ大正元年九月十二日城ヶ島産ノ種草ヲ購入シ同郡ノ沿岸水深三四尋ノ所ニ種草ヲ藁繩ニ挿ミ石塊ニ結ビ付ケ投入移殖ヲ圖リシモ未ダ其ノ結果ヲ報告スルニ至ラズ

赤潮調査

八月十六日小田原並ニ三崎附近夜光虫ニ依ル赤潮出現セリ

既往夜光虫ニ依ル赤潮ニアリテハ餘リ被害ヲ見ザレドモ同日小網代灣ニ來襲セシモノハ本場鯉蓄養場張網外ニ浮堆シ數寸ノ層トナリ附近海水赤桃色ヲ呈シ漸次斃死スルニ及ンデハ白濁色ニ變ジ五六時間ノ後消失セリト雖モ時恰カモ最低時ニシテ炎暑烈シク爲メニ蓄養鯉大ニ害ヲ蒙レリ

尙縣測候所ノ報告ニ依レバ九月七日夕ヨリ東京灣内久良岐郡沿岸ヲ中心トシ發生セル赤潮ハ附近ニ滿漫シ八日朝ニ至リテハこち、まるた、せいご、かいづ、うなぎ、あいなめ、かれい、はせ、あさり、まで等斃死スルモノアルヲ見タリシガ十日朝ニ至リテハ横濱港附近ノモノハ消失シ平復セリ

此ノ赤潮ハ毎年秋季發生スルモノニシテ鞭藻類ニ屬シ海水茶褐色ヲ呈シ油ヲ流浮セルガ如ク漫延シ魚介類ニ害ヲ與フルモノナレドモ本場ニ於テ本年度之レガ調査ヲナシ得ザリシハ遺憾トスル處ナリ

養殖適地調査

魚介藻養殖適地調査ハ區々斷片的ニシテ未ダ綜括スルヲ得ザルヲ以テ後日ヲ期シテ報告ス可シ

漁業基本調査

本場ニ於テハ別圖ノ如ク相模海ニ面セル三浦郡長井村字荒崎ノ西方(弱南方)距岸約一里弱(北緯三五度一分二十秒東徑百三十九度三十四分十五秒)水深百十五尋底質細砂ニ幾分ノ泥土ヲ混ゼル個所ニ於テ毎月一日十五日ノ兩回表面二十五尋、五十尋、七十五尋ノ各層ニ於ケル海洋観測並浮游生物ノ調査ヲ爲セリ

但シ種々場務ノ都合上十月ヨリ開始シ未ダ滿一ヶ年ニ充タズ且ツ小漁船ニ依リテ施行セシヲ以テ豫定日風波烈シキ時ハ観測シ能ハザリシヲ以テ未ダ茲ニ綜合的ニ記載スルヲ得ザレドモ左ニ附近例年ノ漁況概狀並ニ観測セルモノヲ列記セン

観測點附近ニ於ケル例年ノ漁業概況表

漁獲物ノ種類	漁期	盛漁期	一日ノ最大	總漁獲高	備考
サシ	自十月至十一月	自十月中旬至十一月初旬	七〇〇〇〇尾	三五〇〇〇〇尾	出漁船七隻出漁日數五十日一隻一日平均一千尾漁獲後期漁船小
ソウダ	自七月至十一月	九月、十月	五、〇〇〇〇尾	二〇〇〇〇〇尾	出漁船五十隻盛漁ノ際一日一隻八貫匁位年々漁獲増加
カサ	自七月至十一月	九月、十月	四、〇〇〇〇尾	一五〇〇〇〇尾	發動機付漁船ノ新造増加以來沖合ニ出流スルモノ多キタメナランカ近來漁獲漸シ日
サシ	自十月至十二月	十月下旬	四、五〇〇〇尾	七〇〇〇〇〇尾	出漁船十五隻一日三百尾位漁獲チ大漁トス
サシ	自正月至四月	二月	二〇〇〇〇〇尾	一〇〇〇〇〇〇尾	大漁ノ際百隻位出漁一日一隻三百尾位漁獲大正二年
スルメ	自五月至七月	至五月下旬	一〇〇〇〇〇〇尾	八〇〇〇〇〇〇尾	出漁船五十隻一日一隻二千尾乃至三千尾ノ時ハ大漁
カサ	自七月至十一月	九月、十月	七〇〇〇〇尾	三〇〇〇〇〇尾	出漁船五十隻一日一隻二千尾乃至三千尾ノ時ハ大漁
カサ	自七月至十一月	九月、十月	七〇〇〇〇尾	三〇〇〇〇〇尾	出漁船五十隻一日一隻二千尾乃至三千尾ノ時ハ大漁
カサ	自七月至十一月	九月、十月	七〇〇〇〇尾	三〇〇〇〇〇尾	出漁船五十隻一日一隻二千尾乃至三千尾ノ時ハ大漁

海洋観測表

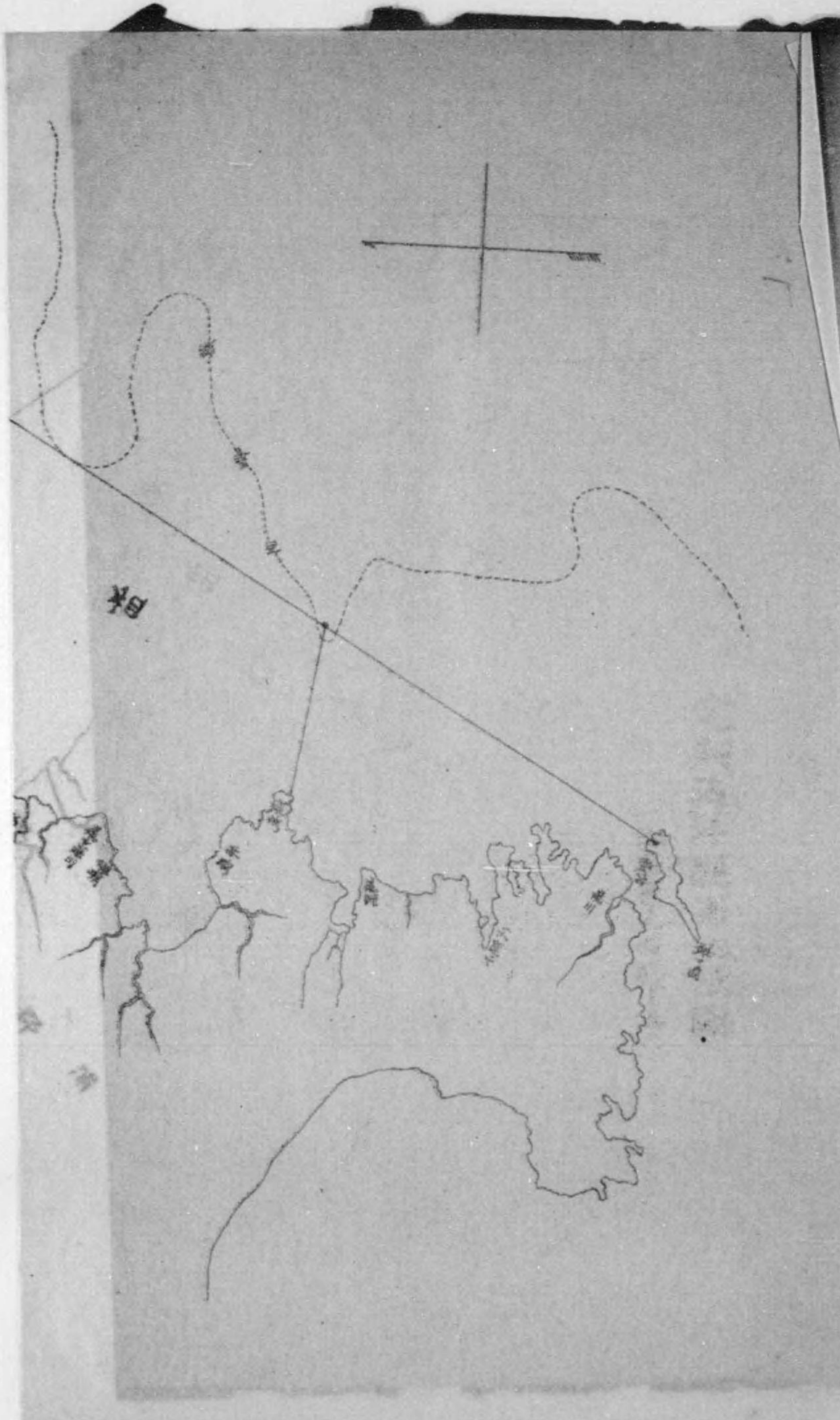
年次月日	時刻	天候	風向	風力	水色	透明度	月齢	潮候	流向	流速	温度	備	参考事項
大正二年四月一日	午後一時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二日	午後二時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月三日	午後三時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月四日	午後四時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月五日	午後五時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月六日	午後六時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月七日	午後七時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月八日	午後八時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月九日	午後九時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十日	午後十時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十一日	午後十一時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十二日	午後十二時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十三日	午後一時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十四日	午後二時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十五日	午後三時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十六日	午後四時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十七日	午後五時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十八日	午後六時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月十九日	午後七時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二十日	午後八時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二十一日	午後九時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二十二日	午後十時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二十三日	午後十一時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前
大正二年四月二十四日	午後十二時	晴	北	弱	濁	三	三	満潮	北	緩	一五・二〇	一〇・五五	波瀾大観測中止前

備考 小漁船ニ依リテ観測セシヲ以テ气温ハ正確ナラズ比重大ノ攝氏十五度ニ換算セシモノナリ其他器具器械並記入方法等本局ノ指定ニ依リテ観測ス

附註 附近ニ於ケルモトス

海洋観測表

六五

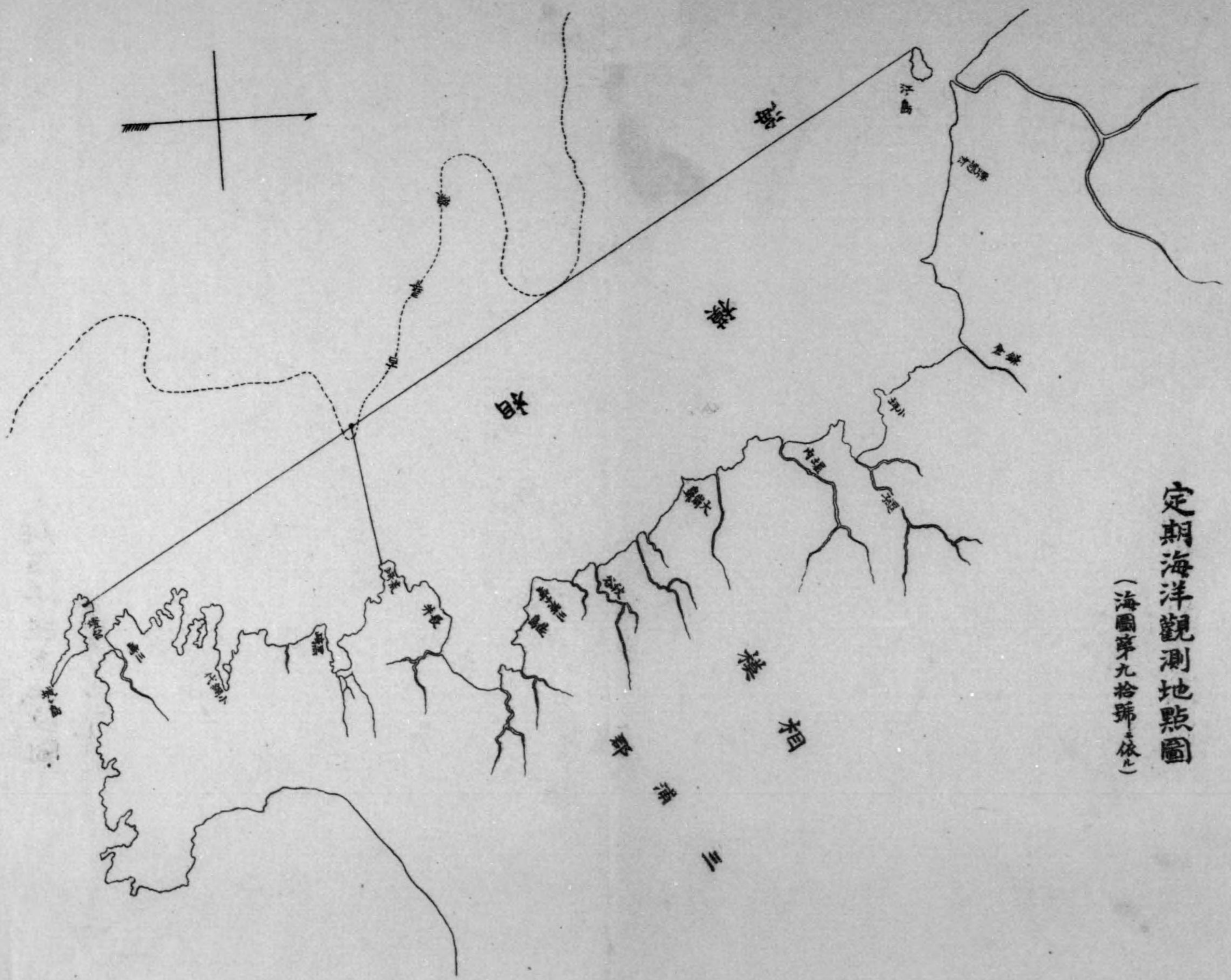


表層浮游生物測定表

表層浮游生物測定表

種類	總量	年 月 日	
		年	月 日
硅藻類	二〇、七	大正元年	十月二日
(イ)キートセラス	十	大正元年	十月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十一月十五日
鞭藻類	十	大正元年	十一月十五日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正元年	十一月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十一月十五日
撓脚類	十	大正元年	十一月十五日
其他ノ浮游生物	十	大正元年	十一月十五日
硅藻類	三〇、九	大正元年	十一月十五日
(イ)キートセラス	十	大正元年	十一月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十一月十五日
鞭藻類	十	大正元年	十一月十五日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正元年	十一月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十一月十五日
撓脚類	十	大正元年	十一月十五日
其他ノ浮游生物	十	大正元年	十一月十五日
硅藻類	〇、九	大正元年	十二月十日
(イ)キートセラス	十	大正元年	十二月十日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十二月十日
鞭藻類	十	大正元年	十二月十日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正元年	十二月十日
(ロ)其他ノ種類	十	大正元年	十二月十日
撓脚類	十	大正元年	十二月十日
其他ノ浮游生物	十	大正元年	十二月十日
硅藻類	一三、四	大正二年	一月十五日
(イ)キートセラス	十	大正二年	一月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	一月十五日
鞭藻類	十	大正二年	一月十五日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正二年	一月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	一月十五日
撓脚類	十	大正二年	一月十五日
其他ノ浮游生物	十	大正二年	一月十五日
硅藻類	二、一	大正二年	二月二日
(イ)キートセラス	十	大正二年	二月二日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	二月二日
鞭藻類	十	大正二年	二月二日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正二年	二月二日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	二月二日
撓脚類	十	大正二年	二月二日
其他ノ浮游生物	十	大正二年	二月二日
硅藻類	二、五、〇	大正二年	三月四日
(イ)キートセラス	十	大正二年	三月四日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	三月四日
鞭藻類	十	大正二年	三月四日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正二年	三月四日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	三月四日
撓脚類	十	大正二年	三月四日
其他ノ浮游生物	十	大正二年	三月四日
硅藻類	二、七、〇	大正二年	三月十五日
(イ)キートセラス	十	大正二年	三月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	三月十五日
鞭藻類	十	大正二年	三月十五日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正二年	三月十五日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	三月十五日
撓脚類	十	大正二年	三月十五日
其他ノ浮游生物	十	大正二年	三月十五日
硅藻類	一五、〇	大正二年	四月一日
(イ)キートセラス	十	大正二年	四月一日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	四月一日
鞭藻類	十	大正二年	四月一日
(イ)ペリデイニアシイ	十	大正二年	四月一日
(ロ)其他ノ種類	十	大正二年	四月一日
撓脚類	十	大正二年	四月一日
其他ノ浮游生物	十	大正二年	四月一日

備考 ○多量、○稍多量、○少量、○稀、○極稀ヲ表ハスモノトス
 浮游生物中常ニ多量ニ現ハル、モノハ硅藻類及撓脚類ニシテ就中三月四日並四月一日ノ如キハ硅藻類著シク發
 生シ他ノ種ハ殆ンド皆無ニシタタメニ海水汚濁シ淡黄色ヲ呈セリ
 尙右表中其他ノ浮游生物ノ項中主ナルモノハ「やむし」「あつべんでいぎゆらりあ」「腹足類及撓脚類ノ幼仔等ナリ



定期海洋観測地点圖
 (海圖第九拾號ニ依ル)

其他ノ浮游生物	撓脚類	(ロ)其他ノ種類	(イ)ペリディニアシイ	鞭藻類	(ロ)其他ノ種類
+	c.c. +	r	+	+	c
c	c.c	r	+	+	c
+	c.c. +	r	+	+	c.c
+	c.c	+	c.c	c.c	c.c
+	c.c	+	+	+	c.c
+	c	r	r	r	+
r.r.	c	r	rr	r	c
r	c.c	+	+	+	c
+	c.c	r	+	+	c.c
r	+	r	rr	r	c
c	c.c	+	c	c	c
rr	+	r	r	r	c.c

備考 ○多量、○稍多量、十少量、○稀、○極稀ヲ表ハヌモノトス
 浮游生物中常ニ多量ニ現ハル、モノハ硅藻類及撓脚類ニシテ就中三月四日並四月一日ノ如キハ硅藻類著シク發
 生シ他ノ種ハ殆ンド皆無ニシタメニ海水汚濁シ淡黄色ヲ呈セリ
 尙右表中其他ノ浮游生物ノ項中主ナルモノハ「やむし」「あつべんでいぎゆらりあ」「腹足類及撓脚類ノ幼仔等ナリ

14.21
306

大正二年九月二日印刷
大正二年九月四日發行

神奈川縣水產試驗場

印刷者 大橋德壽
橫濱市相生町三丁目五十一番地

印刷所 大橋活版所
橫濱市相生町三丁目五十一番地
電話二千七百二十番



相模川流域調査圖
(大橋德壽氏調査)

終

